

平成22年第16回教育委員会記録

平成22年8月26日（木）

杉並区教育委員会

教育委員会記録

日 時 平成22年8月26日(木) 午後2時00分～午後4時35分

場 所 教育委員会室

出席委員 委員長 大藏 雄之助 職務代理者 宮坂 公夫
委員 田中 奈那子 委員 對馬 初音
教育長 井出 隆安

欠席委員 (なし)

出席説明員 事務局次長 吉田 順之 教育部改革担当長 渡辺 均

庶務課長 北風 進 教課 育人事企画長 佐藤 浩

教育改革推進課長 岡本 勝実 教育委員会事務局事務統括指導主事 白石 高士

学務課長 日暮 修通 社会教育課長 植田 敏郎

済美教育一長 玉山 雅夫 済美教育一長 坂田 篤

済美教育一長 田中 稔 中央図書館長 和田 義広

事務局職員 庶務係長 日下部 仁 法規担当係長 佐野 太一
担当書記 島崎 和也

傍聴者数 20名

会議に付した事件

(議案)

議案第83号 杉並区立小学校において使用する教科用図書(平成23～26年度使用)の採択について

議案第84号 杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書(平成23年度使用)の採択について

目 次

議事録署名委員の指名について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

議案審議

議案第83号 杉並区立小学校において使用する教科用図書（平成23
～26年度使用）の採択について・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

議案第84号 杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学
校の特別支援学級において使用する教科用図書（平成
23年度使用）の採択について・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

委員長 それでは、ただいまから平成22年第16回教育委員会定例会を開催いたします。

なお、本日の議事録の署名委員は、宮坂委員にお願いいたします。

本日の議事日程は、ご案内のとおり、議案が2件となっております。

審議に先立ちまして、あらかじめ傍聴の皆様申し上げます。審議中は写真の撮影、録音はご遠慮いただきますが、それ以外にも、会議について批評を加えたり、賛否を表明したり、私語・雑談などをされませんように。それからまた、みだりに傍聴席を立てて出入りをなさることもありませんように。もう一つ、携帯電話の電源を切っていただくということをお願いいたします。

それでは、審議に入ります。

日程第1、議案第83号、杉並区立小学校において使用する教科用図書、平成23年度から26年度までの4年間です。この使用の採択について上程し、審議いたします。

済美教育センター副所長から説明をお願いいたします。

済美教育センター副所長 それでは、私から、議案第83号の杉並区立小学校において使用する教科用図書の採択について、ご説明を申し上げます。

初めに、今回採択候補となっている教科用図書の概要について、ご説明を申し上げます。

この度、採択していただく教科用図書につきましては、来年度の学習指導要領の改訂に伴い、平成23年度から26年度の4カ年で使用するものでございます。文部科学省の検定に合格をしました11種目51種類の教科用図書からご審議をいただくことになります。

次に、調査事務及び教科書展示会についてご報告を申し上げます。

教科用図書の調査・研究につきましては、杉並区立学校教科用図書の採択に関する規則、同調査事務処理要綱、そして、同調査事務に関する手引きに基づいて行われました。

4月27日に第1回教科用図書の調査委員会を開催いたしまして、4回の協議を通して、すべての教科用図書について調査・研究を行いました。教科書調査委員会の報告書につきましては、種目ごとの教科書について、調査・研究を行う種目別調査部会や各小学校による調査・研究結果、そして、教科書展示会で寄せられた区民の方々からのご意見を参考にしてまとめられました。また、教科書展示会には219名の来館があり、80通のアンケートが提出されております。

調査・研究結果につきましては、8月2日に教科書調査委員長から教育委員長に報告をご提出させていただき、委員会のご質問等にお答えをいたしました。加えて、8月11日及び8月19日の2日間にわたって、報告書及び教科書等の内容等について、質疑を行わせていただいたものでございます。

提案理由につきましては、義務教育諸学校の教科用図書無償措置に関する法律第13条及び第14条の規定に基づき、区立小学校で使用する教科用図書を採択する必要があるため、ご審議をお願い

いするものでございます。議案の朗読は省略させていただきます。

よろしく願いいたします。

委員長 どうもありがとうございました。

それでは、これから、来年から使用する小学校用教科用図書の採択審査に入ります。

それに先立ちまして、新しく教育委員会におなりになった方もいらっしゃいますので、進め方について簡単に申し述べます。

過去6年間は旧学習指導要領に準拠した教科書を使ってまいりました。今回は新しい学習指導要領に基づく教科書を選ぶことになります。

私どもは、ここに5人の教育委員がおります。それぞれ、これらの教科用図書を教科書会社ごとに、1年から6年といろいろありますが、そういうのを縦に読んだり、それから各学年ごとに横に並べて読んだり、いろいろ研究をしてまいりました。既にちょうどいしている小学校教科書調査委員会報告書の他に、そのもとになる種目別調査部会報告書、それから学校調査報告書、教科書見本の展示会場にご来場になった方々のアンケート、それから、東京都教育委員会の教科書調査研究資料というのものもたくさんありますが、そういうものを考えるに当たっての参考といたしました。

今回、残念なことでありますが、量的には25%増えたという、非常に厚い教科書にそれぞれなったんですけれども、例えば国語の教科書でいいますと、何十年前からの定番というものが、やはり主流を占めていたりして、余り新しさが感じられなかったということはあります。

ただ、もっとも、教科書というのは非常に大事ではありますけれども、最終的にはそれを使って指導する現場の先生方の技量、それから努力にかかっておりますので、そこで新しい指導要領に基づく成果が得られるものと期待しております。

なお、教科書はどれも長所も短所もあります。検定に通ったからといって、全てとにかく万全というわけではありません。そこで、その全部を指摘していただくと何時間あっても足りませんので、それぞれ皆さんが、この部分は教科書にふさわしいとお思いになったことを、特にそこに力点を置いてご発言をいただきたい、意見を交換したいと思っております。それで、皆さんの意見をできるだけたくさん伺って、合議体としての教育委員会の実を上げたいと思います。

では、教科順序がありまして、国語から順番に並んでおりますので、国語、書写、社会と並んでおりますので、国語から入ってまいります。

初めに、對馬委員はいかがでございましょうか。

對馬委員 国語の教科書、5社ございまして、全部拝見いたしました。

私、教育委員になる前に学校司書をさせていただいてまして、その目を見た時に、発展系の

読書の本を提示している質が大変よかったのが教育出版の教科書でございました。他の教科書も、もちろんいろいろ発展させたものは多くございましたけれども、ここは大変私は良いなと思いました。

もう一つ、光村も大変良い発展系の本を数多く出していました。光村に関しては、ほかの説明文などの教材や読み物の教材もバランスがよく、種類も多く、教材研究もなされていて、使いやすい教科書ではないかと思います。ただ、ちょっと昔話のところで、1年生の教科書でしたか、昔話の絵の部分で、先生が使っていただく時に、少し工夫をしていただいたほうがいいかなと思う部分は感じられましたが、総合的に考えますと、私は光村の教科書が一番使いやすいのではないかなという感じがいたしました。

委員長 ありがとうございます。

それでは、今、口火を切っていただきまして、対馬委員が一番最近まで司書をなさっていて、それから小学校のお子さんが前いらっしゃいましたので、一番そういうことにはお詳しい、よくわかると思いますが、他の方、いかがでございましょうか。

田中さんも何か。

田中委員 私も5社を、一応目を通させていただきました。

私も教育出版と光村を最終的に絞って見させていただいたんですけども、教育出版の方は、確かにいろいろな文学系とか伝記とか随筆とか、いろいろな文章が掲載されていて、とてもいろいろな形で子どもたちに学習ができるかなと思ったんですけども、読むところ、やはり5、6年生になると、文字の大きさが結構一貫性がなくて、すごく詰まった感じで書かれているところもあって、扱いやすいのはやっぱり光村かななんて思ったんですが、光村は、5、6年生の方が、合本になって少々重たくなっているんですね、1冊なので。ただ、5、6年生になると体力的にも大丈夫かなと思って、ランドセルに入る大きさ、だいたい大きさが大きくなって厚さも増してきたので、一応ランドセルに入れてみたり、そういうこともやってみたんですけども、まあ何とかおさまるような形、重さだったので、それはそれで良いと思いましたし、私も一応、子どもの目から見て扱いやすい、読みやすい、学習しやすいということで、光村図書の本を推薦したいかなと思います。

委員長 宮坂委員、いかがですか。

宮坂委員 私も結論は同じようになりますが、私は、やっぱり国語というものは一番の基礎でありまして、情報伝達のための手段だけではなくて、全ての論理的な思考、知的な活動の基礎を育てる、非常に大事なものだと思っています。そして、そもそも古来、祖先より伝えられてきた、日本人としての情緒、感性を培うものだとも考えております。

したがって、これは藤原正彦先生がよく使う言葉で、お茶の水女子大学の数学の先生なんですが、もともとはルーマニアの思想家シオランの言葉なんです。「祖国とは国語だ」ということを言っておりまして、やはり国のためには、その中核になるのは国語であるということをおっしゃいます。その意味において、私は国語というのは特に大事なものと考えています。

したがって、内容的には、やはり古典をバランスよく載せてほしいこと。それから、日本の神話、昔話、漢字の由来、故事成語というんですか、「五十歩百歩」とか「漁夫の利」、「蜚雪の功」という言葉がありますが、そういう言葉はどういう謂れで生まれてきたのか。あるいは日本生まれの漢字、「働く」とか「峠」、そういうふうな日本生まれ。漢字はもう原則的には向こうから来たものですが、日本でつくられた漢字もあるんです。「躰」、身体という字に美しいと書くんですけども、そういう日本で生まれた漢字というもの、全部で1,500ほどあるらしいんですが、そういうことをバランスよく、やっぱり載せてほしいと思います。

それから最後に、これは私の個人的な考えですが、これはあくまでも国語の教科書ですから、あまりに強い戦争批判、そういったものを意識的に載せるというものは、小学校の段階でいかなものかと考えております。

そういった観点で見ましたところ、やはり現在使いなれているという意味で、私も光村には反対いたしません。あえて、後でこれはどうかというのをやれば教育出版、あるいは東京書籍も別に特に悪いと私は思っておりませんので、この辺から選んでいただければよろしいんじゃないかと思えます。

以上でございます。

委員長 教育長、いかがでございますか。

教育長 新しい学習指導要領の改正に当たって、言語活動を重視するというふうな観点が、かなり強められたんですね。国語の教科書で、そこを意識して編集されているとしたら、どこが変わってくるのかなというふうに思って読んでみましたが、先ほど委員長がご指摘されていましたが、そんなに変わらないんですね。

ただ、三省堂はかなりその辺を意識して、編集したなというような感じはしました。というのは、編集員に若手がふえてきて、いわゆる新しい情報処理とか、そういったものにかかわっているような方が編集員に入ってくると、ちょっと他社とは違うかなというふうに思ったんですが、まだ煮詰まっていないというような感じもしています。

さっきは定番と言われているものの中に、例えば5年生の「大造じいさんとガン」というの、これは東書と光村と学図と教出と、4社が扱っています。それから、4年の「ごんぎつね」は、それに加えて三省堂も扱っています。いわば、こういった定番の教材を新しい指導要領に基づい

てどういうふうに授業するんだろうということなんか思いながら読んだんですが、そんなに変わるはずもないなという感じです。

どういうふうに扱っているのかということを見れば、いろいろ差はあるんですけども、私、ふと思ったことがありました。朗読をしてみようとか、心を込めて読んでみようとかというような、そういう課題をもし設けたとした時に、これは学校図書なんですけど、文末に例えば「何々から聞いたお話です」というのを、「お」が一番下に来て、「話です」というような行がえになっていたりとか、「何々を入れてきた」というところの「き」までが一番下で、「た」だけ行がえして、ぼんと載っかっているとかという、そういうところを見ていて、心を込めて読むとか、登場する作者の気持ちになって読み取ろうとかという時に、こういうふうに行を、ぽこんと接頭語を頭につけたまま行がえするとか、たった1行のところ「た」だけ出てくるような、こういうのは何か心配りが足りないなと、これは些少の話ですけども、思ったりもしました。

いろいろ見ていって、私は、光村、東書。どうして光村、東書としたかという、4年の下の一番最初に「ごんぎつね」が出てくるんですよ。下の方の一番最初というのは、いわば上も同じなんですけど、ぱっと開いて一番最初に「ごんぎつね」が出てくるというのと、下を開いていって3單元ぐらいのところに出てくるのではインパクトが違うなという、そんなことも考えながら、せっかくスタンダードを扱うんだったら、一番最初に開いたところに「ごんぎつね」が出てくるのも良いななんて思ったりしながら読みました。

長くなりましたけれども、私は光村か東書。光村に一日の長があるかなというような感じはしています。

委員長 私は、さっき言いましたように、ずっととにかく6年間、前の指導要領で使ってきました。

どれも光村の教科書だったんですね。決定的に違えば、それはもうすぐ替えた方が良いんですけども、あまり違わなければ、今までの方が使い慣れているということもあるでしょう。

それからもう一つは、私、ちょっと思ったのは、この定番がたくさん入ってくるんですけども、学年によって違うのがあるんですね。ある教科書は4年生に入れていて、ある教科書は5年生に入れていて。だから、そうすると、教科書がかわると、前、4年生に入っていたものが今度は5年生にあると、もう一回出てくるんですよ。だから、それはやっぱり退屈だろうと。逆に、5年生に今までのが入っていて、今度、新しい教科書になったら4年生に入っていれば、それは習わないことになりましてけれども、習わない方は、そんなに抵抗がないと思いますけれども、同じの2回出てくると退屈だなということもあるかもしれない。

だから、あまりとにかく決定的にどれが良いとか、これが悪いとかいう、光村は良くないというようなことがあれば別ですけども、そうでなければ私も、どちらかという光村は活字も割

合きれいですし、良いのでないかなと思っています。

それで、それからしますと、いろいろなお話が出てきまして、教育長のお話だと三省堂なんかはなかなか新しいことをやっているということもありましたし、他のもありましたが、大体のところ、光村を続けても良いのではなかろうかというようなお考えでしょうか。

(「そうですね」の声)

委員長 一応そういうことにおきまして、それでは、その次にすぐ入ります。

その次、私はちょっと先走って申し上げて申し訳ないんですけども、書写なんですね、2番目は。書写は、これまでずっと国語の教科書と連動になってきました。それは初めから連動と決めていたわけではありませんが、審議をしていっても、やっぱり国語の教科書に出てくるものは書写のところで文章を書かせたりしています。そういうことからしますと、連動しているほうが簡単かなということを思いまして。

これもあまりそんなにかわり映えしません。例えば、ある教科書は硬筆が多いとか、ある書写の教科書は草書体とかそういうものも入れているとか、いろいろなことがありますけれども、基本的には、やはり学習指導要領に基づいて書いてあります。墨のすり方とか、姿勢のとり方とか、そういうこと、変わりがあまりありません。

それで、その今までのずっと長い経験からしますと、もしも光村の国語教科書をとるなら光村の書写、東書をとるなら東書の書写と、そういうことで連動させてはどうかと思いますが、それはいかがでございましょうか。

(「いいでしょう」の声)

委員長 それでは、ここは内容を審議するようなものは、私はあまりないと思っておりますので、書写はそれぐらいにとどめまして、後の方にいろいろたくさん討議することがあると思います。

では、その次に社会に移りたい。これは、初めに田中さんにお述べいただきます。

田中委員 はい。では私から、調査しました結果をお話しさせていただきます。

社会は5社で、3、4年合本で、光村図書だけが5、6年生が上下合本で、多少重たくなっているかなという感じはいたしました。社会に関して、まず「学習問題が明確にできているか」、「写真資料が的確か」、そして「使いやすいか」、「基本的に理解しやすいか」というような視点から、各社の教科書を見させていただきました。

私は、東京書籍と、ちょっとここがわからないんですけども、日本文教出版は「小学社会」と「小学生の社会」という、2つ出ているんですけどね、教科書が。

委員長 本当に2つあるんです。

田中委員 その「小学生の社会」の方が、児童に扱いやすいかなという視点で見させていただきま

した。

まず、東京書籍の方なんですけれども、学習の進め方がしっかりしていて、まず掴むとか、調べる、まとめるの3段階で、児童が見通しを持って学習を進められるようになっていっているのかなということを感じました。資料とか写真が、児童が興味を持って意欲的に学習を進められるような工夫が一番されているようにも感じました。單元ごとに、問題解決学習も進めやすいような構成になっているのではないかと思います。具体的な事例もたくさん入っていましたし、働く人たちの実際の体験の話なども多く取り上げられている内容で、子どもたちが理解しやすいかなという思いもしました。あと、学び方コーナーを使いながら、しっかり内容も押さえているし、言葉の部分の重要語句が補足説明もされていて、扱いやすし、わかりやすいかなという気持ちもありました。

あと、4年生なんですけれども、都道府県がほとんど他の教科書は入っているんですけども、日本の。東書は、ちょっとその部分が不足しているんです。これは地図の方との連動なのか、そのところが省いてあるのか、よくわかりませんが、そのところがちょっと取り扱いが不足しているかな、なんていうのは感じたんですけども、全体的なバランスとしては、児童がわかりやすい構成になっているんじゃないかなと思いました。

あと、日本文教の「小学生の社会」の方なんですけれども、基礎的な内容の押さえは、この教科書もしっかりできているんじゃないかな。ただ、少し説明文が長くて、細かいところもあるので、大人からしてみたら、わかりやすかったんですけども、子どもが見るにはちょっと説明が多いかなという感じはしました。あと、児童が調べる学習をしやすいようにはなっているかなというように感じもしましたし、大きくジャンプなんていうページで発展的内容があり、児童によってはいろいろな興味を持てるかなという感じで、「小学生の社会」も一つ、私の中ではいいかなという感じがいたしました。

以上です。

委員長 宮坂委員、ご意見ありますか。

宮坂委員 社会につきましても、私は一通り全部読みました。5社になっていますけれども。

気づいた点では、治安を守る、国、安全を守るという、3、4年生で消防署の仕事、それから警察。ただ、この警察の仕事というのは、大体交番を中心にして、物を届けるとか、あるいは道を聞くとか、交番のお巡りさんの優しい面を強調するものが結構ありましたんですが、自衛隊の仕事について見られている教科書というのは、あまりないんです。これ、本来は、私はやっぱりそれも触れてもらいたいと思います。ただ、日本文教出版のどちらだったですか、それと光村図書では、海の安全を守る仕事として海上保安庁の仕事について触れております。その程度でご

ざいまして、もう少し全般に。だからこの教科書がいいんだ、この教科書が悪いんだということではなくて、全般的にちょっと私はそういう印象を受けました。

それから、日本の歴史についても、これは各社、大体6年生で扱っているんですが、限られたページの中で、どの人物をどの程度入れるかって、これは非常に難しいと思いますが、概してどうかなと思う。例えば与謝野晶子というものを、「弟よ、君を泣く、君死にたまふことなかれ」で有名な与謝野晶子の反戦歌人の面のみを強調しているのが割合多かったんですが、実際はちょっと違うんじゃないかと私は考えております。

また、領土についても、北方領土というのは大体載せているんですが、竹島、尖閣諸島についてはあまり載せていないのが多いと。

それから、日本とつながりの深い国として、各社ともアメリカ、中国、韓国、これはわかるんですが、さらに一国は、会社によってブラジルを載せたり、サウジアラビアを載せたり、エジプトを載せたりして、その理由は何となくは納得、ちょっと曖昧だなという感じもいたしますが。

ただ、そうやって全部やりますと、ぜひこれを使いたいというのは余りないんですが、やはり使い慣れているところという意味で、東京書籍が一番無難かなという感じは持っております。

以上でございます。

委員長 対馬委員はいかがですか。

対馬委員 私も、社会の5社、横に並べて学年ごとにずっと読んでみまして、一通り読んでいくと、私は説明がわかりやすいのは東京書籍の教科書だったような気がいたします。写真やイラストは、どの教科書も比較的多くて、見やすくできておりましたが、東京書籍の教科書は、調べることへの発展のポイントであるとか、学ぶポイントがわかりやすいような気がいたしますので、これを。先生方のアンケートを見ても、これが良いというようなニュアンスが感じられるものも多くございましたので、私は東京書籍が良いかなと思います。

委員長 教育長、いかがですか。

教育長 国語の光村とか社会科の東書とあって、そういう思い込みをなるべく排除して、読んだんですけれども、3、4年の学習の副教材とか、それから、その他関連した資料なんかの蓄積は、やっぱり東書との関連が多いんですね。

もともと東書は、社会科を得意にしているわけですがけれども、特に単元の配列とか、子どもの学習課題の把握であるとか、そういったところに注意をされていて、開いて2ページで学習の中身を俯瞰できるというのもわかりやすいし、そういう意味では私、東書か教育出版かなというように思っていたんですが、どちらかということになれば東書が良いかなというふうに思います。

委員長 歴史とは何かというのも、いろんな人がいろんなことを言っていますが、例えばE. H.

カーは、「歴史とは現在と過去の対話である」というようなことも言っておりました、小学校の歴史の部分といますか、社会の部分は、基本的に人物本位ということで人物を取り上げていく。だから、ずっと歴史の方は、必ずしもつながっておりませんで、時に飛んだりするんですね。例えば縄文から弥生とか、そんなあたりの、それは人がいないものですから飛んだりして、それでずっと聖徳太子に行ったり、聖武天皇に行ったりするわけですけども。しかし、できるだけその中で、人物で人間の社会の発展といますか、そういう面がつながっていくということがやっぱり大事だろうと思うんです。

そういう点では、今、教育長がおっしゃいましたように、先入観なしに言っても、東書は割合つながっているかなということをおもいました。そういうことからすると、これは東京書籍ということに一番絞られるんじゃないかなという気はします。

それで、その次に。まだ追加して何かおっしゃることがございますか。

(「結構です」の声)

委員長 よろしゅうございますか。

それでは、その次の地図です。

地図は今、これはもう衆目の一致するところ、地図としての完成度としては、やはりこれはもう一貫して帝国書院が地図を、地理をやっているものですから、それは完成度は高い。これは先生方の評判が返ってきましても、帝国書院の地図は立派だということです。

ただ、地図として立派なことと、それから小学生が使う上で、どっちが使いやすいかという。何かいろんな付表とか、いろんなものがありますが、そういう国旗の一覧表とか、その辺のことを見ますと、必ずしも、とにかく子どもの目から見て帝国書院が良いということになるかどうかは、ちょっとよくわからないと思うんですね。

ですから、これについてご意見があればお伺いします。何かありますか。

対馬委員 私も、地図としての完成度は帝国書院の方が高いと思います。

ただ、やはり東京書籍の社会科の教科書を選ぶのであれば、これのほうの方が即してできるのかなと思いましたが、どうも先生方がお使いやすそうなのは帝国書院らしいということですので、現場が使いやすいのであれば、帝国書院を選んでおくのが良いのかなと思います。

委員長 田中委員、ございますか。

田中委員 そうですね、確かに地図も専門的で、色遣いとかやはり、そういう面では帝国書院のほうが見やすいような気がいたしました。地図帳としての扱い方はやっぱりいいのかなと思ったんですけども、東京書籍は、先ほど申し上げましたように、都道府県が4年生のほうに載っていないのは地図のほうと併用して扱って教えていく、先生方が教えるのかなんていうふうに勝手

に想像したんですけれども。

あと、東京書籍は、最初に東京23区というのが地図に入っているんですね。東京から入っているので、やはり子どもたちが自分たちの住む東京というものがわかってから広がっていく面では東京書籍も良いのかなと思ったんですけれども、あまり私も社会の教科書と連動して地図を使わなきゃいけないというものは思っていないので、地図としては、私は帝国書院の方を扱ってきたいなと思います。

委員長 他に何かご意見ございますか。

宮坂委員 私も一言感想。

地図といえば確かに帝国書院というのが定番ですから、帝国書院でも構わないと思います。ただ、どっちが良いんだと、私、個人的な思いも込めて考えてみると、やはり私は、東京書籍の方が、いろいろなジャンルは載っているんじゃないかと思います。

巻末の世界の国々の地図は、これ、確かに帝国書院のほうが見開きで大きく載っていますし、よくわかりますから、東京書籍よりははるかにいいんです。ただ、あそこ、さっき国旗というのをだれかが言いましたけれども、世界の国旗というものは東京書籍には一覧で全部載っているんです。ところが、帝国書院はこういうふうにはばらばらになっておりますので、ちょっとわかりにくいということ。

それともう一つ、私、気づいたのは、日本の古い国がありますよね、国の名前が。いろいろ武蔵の国とか相模の国とかなんとか、あれは何県に当たるのかということが載っていれば便利だなと思うのですが、それが東京書籍には、日本の旧地名、武蔵、相模、土佐、出雲とかそういうのが、現在の県との関係が一目でわかるようなのが一つ載っているんです。そして、その歴史とか、こういう事件があった、関ヶ原があったと、もちろん1ページの中ですから、大して載っていないんですけれども。帝国書院もたしか載っているんです。載っているんですけれども、ちょっと見づらいなと思って、やはりこれは東京書籍の方が、見やすいんじゃないかなという感じはいたしますが。

その程度でございまして、特にだからどうしても東京書籍の方が良いんだと言うまではいきませんので、一般の先生方が使いやすいということであれば、帝国書院でも構わないと思っております。

それから、これは関係ないことですが、一言。

やっぱりさすがにこの地図というものは、立派だなと思ったのは、これは会社に関係ありません、どちらもいいので。東京書籍、帝国書院に対して、余りこういうところばかり私も言っているのはちょっと気が引けるんですけれども、例えば北方四島、竹島、尖閣諸島、これはもちろん

小学校から日本として載っていますんですが、サハリン、旧樺太、それから北方四島以北の千島列島、これを色遣いは両社とも白になっているんです。日本の国なら赤で塗っている。隣の国はブルーとか、いろんな色になっていますが、ここが結局、所属不明として載っているので、これは立派なことだと思います。そのとおりだと思います。

確かに戦争に負けた、昭和20年に日本は放棄はしましたけれども、旧ソ連、今のロシアに対して放棄したわけでもないし、これはただ棚上げになっているので、実際的には所属国とは、日本の立場としては不明だというのが、私、正しい姿と思う。したがって、地図を白にするということは、先生がどう教えるか、それを聞いた子どもが、ここ白になっているけど、これはどうするの、赤に塗っていいの、それとも緑に塗っていいのとなった時に、何と先生が答えるかが難しいというのはあると思いますけれども、この辺は両方の、だから帝国書院がいいとか、東京書籍がいいとかということなく、両方ともそれは白になっていますので、ああ、さすがだなと、私は感心いたしました。

以上です。これは教科書とか関係ありません。どちらが良いというものは関係ありません。

どちらかといえば、私は東京書籍の方が良いかなと思います。見開き等いろんな問題、印刷の仕方とかいろいろ考えると、帝国書院でも別に十分だと思いますし、先生方が教えやすいということであれば帝国書院でも構わないと思いますが、委員長にお任せします。

委員長 教育長もご意見ございますか。

教育長 ええ。東京書籍は、やはり教科書を意識してつくっていますね。教科書と一体の資料ということですから、それはそれで意義のあることだと思うんです。

地図帳としての中身というか、資料性ということからすると、やはり帝国書院のほうが完成度は高い。完成度って失礼ですね。扱う現場の言葉をかりれば、使い勝手がいいということなんだろうと思います。確認のポイント一つとっても、全体のバランス、やっぱり地図を作成していく上でのバランスなんかも帝国書院の方が優れている、見やすいということは確かに言えるので、これは資料として使う、あるいは地図として、地図帳として使うということで意見が分かれるかもしれませんが、帝国書院の中身、こっちを私は買いたいなというふうに思います。

委員長 私も、国語の時には、書写は国語に連動した方が良いと言ったんですが、地図はそれほど毎日毎日開いてやるわけでもないし、そんなに連動性が強くない。

それから、この地図は、やっぱり見開きになって、折り込みになっているところもありますけれども、そういうもの全部を必ずしも1ページに入れられないので、それをどこで区切るか。県別とか、関東地方とか、そういうのをどこで区切るかというようなことも、なかなか工夫が要るんですね。そういうことからすると、やっぱり帝国書院の方が上手かなという印象を持っており

ます。

そうすると、東京書籍でも良いと思いますが、皆さんの意見からしても、最終的には帝国書院かなという感じだと私は受けとめる。

それでは、その次の算数に入ります。

算数につきましては、これは一番最初に宮坂委員にお願いいたします。

宮坂委員 算数の教科書については、現状では啓林館を使っております。啓林館は、今回の調査委員会の報告書でもおおむね良好です。別に特にだめだというものはありませんが、かつて啓林館の内容が難しいと、あるいは分量が多いといった批判もあったようですが、私は、この点に関しては、教科書ですから、難しい、分量が多いということは欠点ではなく、むしろ長所だと考えております。子どもに考えさせるという名のもとに、問題を与えない、予習復習を少なくして、ゆとりを与えるとの考え方は、現在破綻しているのではないかと私は考えております。現実には、啓林館を使用している杉並区の算数の成績は、たしか上位の方で上がっていると思います。

啓林館の大きな特徴というのが、單元ごとに補充と発展が置かれていることだと思います。他はいずれも、発展が巻末に置かれておりますが、單元ごとに補充と発展が置かれているということは、どの單元でも、一斉授業あるいは少人数指導が選択できるように工夫されているということが言えるんじゃないかと思います。

また、習熟度別の勉強では、勉強しやすくするため、算数の窓の欄というところには、色別に二部構成にする等の配慮も啓林館はされております。

蛇足ですが、杉並区に関連した問題としては、たしか5年生だと思ったんですが、ごみ資源のリサイクルの問題なんかも出ております。

また、そろばんについては、これは当然必要なことです。各社とも3年生または4年生で、4ページから6ページぐらい載せておりますので、これはもうどれも当然なんです、あえて言えば、学校図書は漫画風になっており、ちょっと扱いが軽いように私は感じられております。

以上の観点から、啓林館中心にしゃべりましたが、啓林館で私は十分間違いないと思っております。

以上です。

委員長 對馬委員、いかがでございますか。

對馬委員 私は、啓林館の教科書に関しては、発展系の子どもたちには適している教科書なのかなという印象を受けました。問題数も大変多くて、自主的に勉強していくには大変いい教科書だと思います。

ただ、算数に関して、発展系の子どもたちばかりいるわけではない、ということを考えていき

ますと、私は、東京書籍の教科書は比較的説明が丁寧で、一つの問題から解答を導き出すのも何種類か、いろんな考え方が提示されていて、これは使いやすいのではないか、わかりやすいのではないかという気がいたします。巻末にまとめとかチャレンジ問題などもありますので、ここで自主的に勉強する子も使いやすいかなという気がいたしました。

委員長 教育長、いかがですか。

教育長 私は、この間、いろいろなところで耳にしてきた、啓林館の教科書は、問題のすぐ近くに解答が出ていて使いにくいというような話があったんですが、それはあまり当を得た批判じゃないと思います。むしろ本当に言いたいことは、啓林館の構成の仕方はステップが大きい、最後の結論までいく間にどん、どん、どんと高く上がっていくから、答えが近くにあるように体裁として見える。むしろ構造的なことからいったら、子どもがどんなふうに認識していくかというのを、そこはステップで切って、わかったこと、次でわかることを小さくしながら、よりわかりやすくしていく。そのステップが大きくなればなるほど、ページ数は少なくなるし、問題数も少なく、課題も少なくなるんですね。

そういう観点で見ていくと、啓林館というのは、例えば、分数割る分数の計算をどうするかというのを解決するのに3ページ使っている。一番少ないのは学図の2.5ページ。一番多いのは教育出版の5.1ページ。つまり、教育出版はどうして5.1ページも使っているかという、子どもにいろんな場面を考えさせて、解法の工夫をさせていくんですね。啓林館は3つのパターンでやっているんです。分数を整数で割る、それから分数を分母が1になる分数で割る、そして次は分数を分数で割ると、この3段階なんです。分数を整数で割るというのは5年でやっていますから、すぐできます。それから、分数を例えば3分の1で割るという場合は、3分の1の3倍、単位数としての、単用量としての1を求める場合には3倍すればいいわけですから、これも比較的わかる。次の段階にすぐ分数を分数で割るところに行くんですね。塀をペンキで塗るという、その題材は全部同じです、各社。使っている分数も5分の2とか4分の3とかという、比較的5以下の小さい分数を使って、わからせていくように工夫しているんです。教育出版は、一番最初に5分の2と4分の1という数を使っていくんですが、最初から逆数の考えを持ち出さないで、1に戻すにはどうしたらいいのか。あるいは、その分数を計算の順序に従って、割るだったら下が割るで、掛けるだったら上が掛けるというように、ばらばらにしてから、もう一遍構成し直すとうなるのかと。あるいは、最終的にまとめていくと、逆数にして、つまり、反対にして掛けると同じになるねというように、細かいステップ、大体4段階から5段階のステップに分けて、迫っていくんですね。

そういうふうに考えてみると、今、杉並が済美教育センターを中心に、算数の確かな力をつけ

ていこう、論理性だとか順序性だとか、知っていることをもとにして自分自身で考える力、私はよく現場に行って、キリで穴をあけるような、ぎりぎり穴をあけていくような学力をつけたいねという話を現場の先生とするんですけれども、そういう意味では、子どもが自分の知っている、持っている力で何とか解決に近づいていく、そのためにはステップを小さくしてやって、ここをやったから次、これがわかったから次、というふうに持っていきやり方が良いかなと思います。

そうすると、教育出版とか東京書籍の教科書は、ほぼそういった形でつくられていて、啓林館はちょっとハイブローですね。表紙にマスマティックスと書いてあるんですが、確かに教科書と参考書の真ん中のような編集意図があって、ぽん、ぽん、ぽんとわかる子には非常に良いかもしれないけれども、いわば学力の中位以下の子どもたちにきちっとわからせるという順序を踏んでいくとすれば、東書か教育出版で、どちらかといえば私は、仮に分数なら分数に5ページを割いて、これでもか、これでもかとわからせていくような迫り方をする教育出版がいいかなというふうに思います。

委員長 田中委員、いかがですか。

田中委員 私もそんなに算数が得意な方じゃないので、できない視点で見たんですね。そうしますと、やっぱり啓林館はステップアップがすごく早いし、問題量もすごく多いし。公立なので、やはり基礎は大事に、私は算数なんかは教えてほしいなと思うし、一番わかりやすく扱っているのは東京書籍かなと思ったんですね。

時計にしろ、それから円周率とか、あと円の面積とかも、わかりやすく説明を加えているところがあって、子どもが、もしお休みしても、啓林館だと説明が少ないので、改めて教えてもらわなきゃわからないところがあるけれども、振り返って、東京書籍は自分でも自主学習ができるかなというのは感じたんですね。

そろばんなんか、指の払いのやり方が、啓林館は5ページあるんですけれども、ほとんど少なくて、わかっている子は、見てわかると思うんですけれども、他は細かく親指と人さし指の扱い方が説明されていたり、そういう本当の初歩のところが細かく扱っているかなというので、私は、上の子たちのランクを上げるのも大事だけれども、やっぱり真ん中ぐらいの子が、しっかり基礎を身につける教科書としては、東京書籍がわかりやすいかなという感じがしました。

委員長 とにかく啓林館の教科書というのは、一番変わってしまして、他1社はそんなに変わっていない。啓林館を見ますと、どんどん新しいのが出てくるんですね。だから、この教科書をエイって横に並べて見てみますと、おっ、啓林館はもうこんな単元が出てくるのというようなことがありました。他ではその次の学年で出てきたりするんですね。そういう点では非常に変わっている。そのかわり、早くほかの単元を出すんですけれども、詳しくはそれはやりませんから、次に

移って行って、それで、その単元の復習みたいなものを5年生、6年生でまたやるというようなことになって、逆に、5年、6年では新しいことはあまり出てこないで、復習しているようなことが非常に多い。

それで、難しいということからいえば、とにかくそういう新しいのがどんどん出てきますから、啓林館はやっぱり難しいという印象がありますが、難しいか難しくないかというのは、最終的には先生がどうするかにかかっているんで、私はもうそれは啓林でいい、啓林館をずっと使ってきましたから、意見はありましたけれども、良いんじゃないかと思っていました。

しかし、今、教育長のお話を聞きますと、分数なんかで、啓林館は、3分の1にして、逆にこのところを3倍すればできるという、割合、説明のために上手くつくっているというようなところがあるとすると、それは子どもが勉強するのに、そうでもないのかなと。だから、教育出版のように5ページも使って、いろんな形の分数を続けて出してきて、それで計算させる。そうすると、その時は子どもは3分の1が3になるんじゃないから難しいですけども、こなすのにはいい。

それで、教科がたくさんありますが、その中で一番落ちこぼれが出るのは、やっぱり算数なんですよね。そういうことからすると、算数については、今、出ていましたけれども、私は啓林が良いと思っていましたし、宮坂委員も非常に啓林が良いのではないかといいことでしたが、教育長のお話では教育出版が良いのではないかと。それから、ほかのお二人の方は東書がわかりやすいのではないかと、意見が分かれておりますので、もうちょっとこれについて追加をして、ご説明なりご意見があれば伺いたいと思いますが。特に示唆的なのは、教育長の、なぜ強いて言えば教育出版なのかというのがありましたので、そのことについてご意見を伺えませんか。

田中さん、いかがでございますか。

田中委員 難しいですね。

委員長 教育出版については、どういうふうにご覧になった。

田中委員 そうですね。教育出版も説明的には不足している部分もあるんですけども、わかりやすく説明はされているかなと思ったんですが。

そうですね、もうちょっと考えさせてください。すみません。

宮坂委員 よろしいですか。

委員長 はい、どうぞ。

宮坂委員 啓林館につきましても、算数の考え方なんですけど、これは必ずしも、弱者を切り捨てる、だめな子ということではなくて、習熟度別の勉強では勉強しやすくするために、算数の窓という欄を設けておまして、こう色別になったものですが。ですから、これはあくまでも先生の使い

方、先生がどういうふうにするかによってだいぶ違うと思うんです。

それで、私はやっぱり基本的にはできる子、昔よく幼稚園の駆けっこで、みんなお手々つなぎ、1等、2等を決めないでとなると、ああいう考え方はね。やっぱり競争原理で、できる子はどんどん伸ばしていくということが、学校のためにも、本人のためにも、あるいは社会のために、私は大事だと思う。ちなみに、競争原理を入れるということは、どの分野でも、必ずしも算数だけじゃないんですけれども、私は必要じゃないかなと考えています。

決して弱者を切り捨てるというふうには私は受け取っておりませんでしたから、これは先生の使い方によるものだと思いますので、内容的には、やはり一番合理的かなと私は考えております。

以上でございます。

委員長 對馬委員、いかがですか。

對馬委員 そうですね、啓林館に関して、私は先ほど申し上げましたように、やはり上の方の子にちょっと焦点が合っているような印象はいたしました。

公立の学校なので、やはり、とにかく底上げをきちんとしていくということも大変大事なことです。もちろん宮坂委員がおっしゃったように、伸びる子はどんどん伸ばしていくのは大事だと思いますが、先生方は多分、補充のプリントなどもたくさん作ってくださいますでしょうし、それを考えると、若い先生でも誰でも使える、使いやすい教科書、教えやすい教科書というのが良いのかなと思います。

教育出版と東京書籍に関しては、確かにさほど変わらないといえば変わらないような気もいたします。どちらも啓林館に比べると、本当に説明が丁寧で、ページ数をかけて説明しているなどという印象がございます。私は、東京書籍が全体的に、巻末のまとめとか、チャレンジ問題などが良いかなという印象を持ったので、別に教育出版でここが悪いとか、そういうふうには思ったわけではございません。

委員長 私もいろいろ考えているんですが、できる子というのは、勉強の仕方を知っていますので、どんどん自分でも進んでいけるところがある。ところが、そこについていけない子というのは、勉強の仕方も知らないし、丁寧にやってやらないとわからない。私どもが担当している教育委員会では、所管としてしているところは、小中学校の義務教育課程ですから、そういう子全てを、下の方の部分を底上げして、ついていってくれないと将来困る。

国語や社会は、極端に言いますと、1年分遅れていても、本当に一生懸命本を読んで勉強したり、後で追いつかせることができますが、算数は、4年生でわからないものは、もうわからないままいってしまうと5年生では絶対わからない。5年生でわからなければ6年生でもわからない、中学へ行ってもわからない、そういうふうには。今は、それであまり落第をさせて学習させるとい

うことがありませんので、少人数で追いつかせる程度ですから、そういうことからすると、下の方の子をちゃんと理解させて、学年を上げていかないと難しい。

そういう意味では私は、教育長がおっしゃったことは、私が今まで啓林について考えていることをちょっと反省させるのかなという感じを持っております。

この点について、教育長からさらに何かお話を伺えれば、それを参考にしたいと思いますが、いかがでございましょうか。

教育長 教育出版も東京書籍も、理解の遅い子どもに対応していないわけじゃないんです。むしろ逆の言い方をすれば、論理性を求めるということからすれば、かなり難しいんですね。なぜそうなるのかということを知りたいから、当然、よくできる子であったとしても、それは分数の割り算は、逆さにして掛ければ良いですという答えでは、解答にならないわけです。なぜ逆数を掛ければ値が出るのかということ論理的に説明する必要がありますから、決して3、4ステップに切っているからといって、わかりにくい、理解の遅い子どものためだけではなくて、それを活用すれば、先にわかったつもりでいる子どもに対しても、もう一遍、順序性とか論理性を踏まえた説明を求めていけば、十分、言うところの良くできる子への対応もできると思います。

むしろ、この算数あるいは数学的な論理性をきちんと鍛えておくということは、今の子どもたちに最も欠けているところで、答えの出し方は知っているけれども、なぜそうなるのか説明できないというのが結構あるんですね。そういうふうと考えていくと、この論理の構成を、なぜそうなるのか、なぜそうすることによって得られた結果は正しいのかということ、常に問うていくやり方というのは大事かなというふうに思います。

教育出版と東京書籍、似ているんですけども、実は教育出版の方は、分数に入る前に単位量当たりの求め方をもう一回やるんですね。

3デシリットルで5平方メートルの板を塗ることができます。これはすぐできるんです。5割る3。それから、2デシリットルで5分の2平方メートルの板を塗ることができます。1デシリットル当たり、どれぐらい塗れますか。これもできるんです。5分の2割る2ですから、半分にすればいい。つまり分子が半分になるという、これは5年でできますね。その次に、4分の1デシリットルで5分の2平方メートルの板を塗った場合、1デシリットル当たり、どれぐらい塗ることができますかと問います。そうすると、ああ、数字が分数に変わっていても、考える方法というのは、つまり単位量をもとにして塗れる面積を求めていくということは同じなんだと、そこでまずきちっと押さえている。

東書は、最初に4分の3デシリットルで板5分の2平方メートル塗れましたというところから入っていきながら、また似たようなステップを切っていくんですが、なぜ教育出版が5ページも

費やしているかという、結局、板の広さと使ったペンキの量を、ペンキの量1デシリットル当たりどれくらい塗れるかというのを、整数で考え、それから分数と整数で考え、そして分数と分数で考えというふうにして導いていく。それで子どもたちは、「あっ、どんな数字になっても、両者の関係というのは同じなんだ」ということがわかっていって、最後に、じゃ、それを計算するにはどうしたらいいのかというところに挑んでいくわけですね。その段階では東書も教出も同じなんです。ですから、そういう意味では、これは、余り算数が得意じゃない先生にも、こういうのだったら使えるだろうという予測はしています。つまり、このステップに従っていけばわかるように教えていけるだろうと。

そんなことで、私は幾つかの単元ごとに比較してみたんですが、そういう意味では、教育出版の編集のコンセプトがそこに置かれているなというふうに思います。それは今の杉並が、ずっとこの間、算数の力を育てていこうという時に、論理的に考えて自力で解決していく、そのためにはどうしていったらいいのかという、そういう取り組みに向いているかなという感じはしています。

委員長 教育長はもともと算数をずっとおやりになっていたそうですから、一番の専門家です。

私は、そういう専門でもありませんけれども、項目ごとにずっとページを追って行って、他の教科書を比較しながら、他の委員の方もおやりになったと思いますけれども、ずっと抜き出して行って、同じ単元、同じような扱い方のところで、どっちが良いかなという比較していきますと、教育出版は、低学年の場合は割合と非常に納得というのが多かったです。東京書籍は、どちらかという、後のほうで、啓林は変わっていますから、ちょっとあまり他と比較は、できないんですけども、なかなかおもしろいなとは思っておりました。

そして、教育出版は、今、教育長のおっしゃった数の性質みたいなものを、5年生の上の63ページに出ているんですが、整数の性質というところで、いろんな、倍数とか、素数とか、約数とか、最小公倍数とかやっているんです。それは非常に上手にまとめてあるんですね。そういう点では、確かに教育出版というのはおもしろいかなという気がします。

それで、啓林館は最初から私はもう、難しいところはある意味での利点といいますか、おもしろいところだと思っていましたが、そういうことを伺うと、なかなか啓林館の算数では、少し後ろからついていくのは、少人数教室をやって、習熟度別をやっても難しいかなという印象を持ちました。

それで、最終的には採択する教科書は1つですから、だんだん絞っていかねばなりません。

宮坂さんは啓林で絶対いこうという考え方ですか。

宮坂委員 いや、絶対これできゃだめだとは、そこまで考えていませんけれども、私の中で選ん

だとすれば、啓林館がベターかなというのは考えただけです。

それで、啓林館はトップの頭いい子だけを対象にしているというふうに、何かそういうようなイメージをみんな持たれているんですが、必ずしも私はそうは感じなかったんです。習熟度別の勉強では、勉強しやすくするために、算数の窓という欄がありまして、これ色別に、結局、まだそれほどのレベルない者の対象というものをやっているから、その面は十分考えているんじゃないかなと、私はこういうふうに思ったんですね。

その使い方というのは、やはりこれは先生が。先生を持ち出せば、これはどんな教科書でも、いい先生ならばいい教育ができるし、いくらいい教科書でも、だめな先生はまともな教育できませんから、それを言い出すとちょっとこれは議論になりませんが、先生は決して使い方によっては使いにくい教科書じゃないと私は個人的に思っているんですが、その辺は、皆さんと違うのであれば、それは従います。別に1人で頑張っても仕方ありませんので。

以上です。

委員長 それでは、お二方の、東書との比較の面で、どうお考えになりますか。

田中委員 そうですね、委員長がおっしゃったように、確かに低学年では教育出版もなかなかわかりやすく私はできているなと思って見たんですね。高学年になると、やはり、東書の方が説明的には何か、円の面積にしろ、円周率にしろ、単位にしろ、わかりやすかったんですけども、絶対、東書じゃなきゃだめだというものでは私はないので、教育出版でも同じような、似たところが随分あったので、教育出版でも構わないと思います。

委員長 対馬委員、いかがですか。

対馬委員 私も、先ほど申しあげましたように、別に教育出版のどこが困るとか、そういうふうには思っておりません。教育出版の説明でも、わかりやすいのではないかなと思います。教育出版でも問題ないと思います。

委員長 東書もなかなかおもしろくて、教科書そのものの、どうしてもやらなきゃならないこと以外に、コラム的なもので小数の歴史とか、なかなかよくまとめてあるのですが、なぜ小数というのが出てきたのかという、分数と小数の違いとか、そういうのはおもしろいんですね。読み物としても非常におもしろい所はあります。

もちろん教育出版にも同じような、そういうふうなコラムみたいな部分もあります。

それで、扱っている数字みたいなもの、どの教科書もほとんどみんな同じなんです。ですから、宮坂委員がおっしゃったように、啓林は杉並のごみ処理のとかって、ちょっと親しみがあるところがありますけれども、しかし、全体としてはもうほとんど同じ、そういう数字の扱いは、同じというところは感じました。

それでは、非常にとにかく専門家としての知識のある教育長に倣いまして、教育出版という考え方で一応ここはやっておきます。後でもう一回討議をしたいと思いますが、一応まとめ方としては総括して、よろしくどうぞ。

教育長 それぞれ編集の意図がはっきり分かれていて、例えば啓林館の教科書、私がもし数学を教えるとしたら、使ってみたいと思います。それぐらい中身に、魅力的な部分もあるんです。それは教える時のおもしろさということかと思いますが、

それから、東書の特徴は、数直線を使って相対的に物を見ていくという、これはもう関数の手法につながっていくので、それぞれいいところはあるという面を私も思っています。

参考までにですが。

委員長 啓林館をずっと使ってきましたから、6年間使ったわけですから、それをとにかくかえるについては、やや心残りもありますけれども、しかし、やはり、どういう風に子どもが育っていくかという、特に義務教育課程で落ちこぼれなく上へ行くかというのは、算数が一番大事なところですから、私も啓林館と思っていましたけれども、それも違うかなという印象を持っております。

それでは、その次に理科に進みます。

理科は教育長、またお願いします。

教育長 理科は、タイトルを見ていくとおもしろいんですね。「新しい理科」、「たのしい理科」、「みんなと学ぶ 小学校 理科」、「地球となかよし 小学理科」、「わくわく理科」、これは言ってみれば、この教科書のタイトルというのは、要するに、編集のコンセプトでもあるなというふうに思っているんです。

ざっと見ていって、まずは扱いやすいかということとか、あと写真が鮮明であるかとか、特に理科ですから、挿絵であるとか、写真であるとか、そういったものの扱いやすさとか見ばえの良さというのも注意していたんですが、教育出版が「地球となかよし」という基本的なコンセプト、これは全ての学年において、環境に関する部分、生命に関する部分、そういったものを強く意識づけていこうという思いが伝わってきます。大日本も同じです。生命と環境に関するところにはマークをつけて、そこに意識をさせていく。そういう意味では、これからの私たちの大きな課題である地球の環境、身の回りの環境とどうつき合っていくのか、どう保全していくのかという、そういうのを編集の基本コンセプトにしているなということ強く思いました。他がだめというんじゃないで、そんなことから考えていくと、まずこの2つかな。

東京書籍で特徴なのが、新しい学習指導要領で言語活動というような話をさっきもしましたけれども、みんなと話し合おうとか、話し合おうとか、意見を言おうとかという場面

が教科書の中に結構、出てくるんですね。ああ、苦労しているなと思うんですが、教科書の中で話し合えようかと一々断って、そこでスペースを割かなくても、それはもう学習を進めていく中で当然、話し合いの場面もあるし、討論する場面もあるし、検証したりする場面もある。これが理科の特徴ですから、その努力は買うけれども、わざわざ話し合えようというのを起こす必要はあるのかなというような疑問を感じました。別にけちをつけているわけじゃなくて、そこに編集の意図があるのかなというような思いもしました。

ですから、大日本が教育出版で、その基本的なコンセプトを地球環境との今後のつき合い方、そんなものに意識をして課題があり、適切な学習を進めていく、そういったガイドブックとしてのことを考えると、まず教育出版。それから、大日本の見開きというか大きさと分冊にした手軽さ、これも写真が大きいですから、なかなかインパクトがあります。そういう意味で、このどちらかという感じはしています。

委員長 それでは、その次、何かございますか。對馬委員、ございますか。

對馬委員 はい。私も絞って行って、同じように大日本が教育出版が良いかなと思っております。大日本は上巻、下巻、分冊になっていますので、1冊ずつは軽くなっていますね。教育出版の方は逆に、上下合本になっているんですが、こうすると振り返りやすかったりする。これはどちらも一長一短なのかなという気はいたしますが。

大日本の方で、説明がわかりやすく大変おもしろい。読み物、見てもおもしろいなと思いました。実験なども非常に興味、関心を引く内容で出ていると思います。

教育出版の方も大変わかりやすく、こちらの方は多少、調べ学習への発展が多いような気がいたしました。これ、特に高学年になってくる6年生、5年生の単元で、コンピューターや図書館に行って調べてみようというのがよく出てきたのは、教育出版だったかなという印象があります。

委員長 田中委員、いかがですか。

田中委員 私は大日本図書がいいかなと思って見ていたんですね。説明の中にもありますが、結構、関東地方の事例も多く入っていて、杉並の子どもたちが使うには良いのかなと思ったり、全般的に生活に密着した、一般的な物の書き方をして、何か馴染みやすかったんですね。例えば、台風の風向きなんかも一番詳しく、わかりやすく、自然に身近に感じられるような書き方をしていたし、あと、星のシートとか、考えるシーンみたいな、とじ込みがあって、それをちょっと一瞬、子どもたちが興味を引いて、教材として使えるかなというところもあったので、私は大日本図書。命とか環境に関する表記にはマークがついていたり、意識づけるにしても、何か大日本図書は、きめ細やかに扱っていたかなと思って、私は大日本図書が良いかなと。

委員長 宮坂委員、いかがですか。

宮坂委員 私も皆様の話を聞いて、今現在使っておりますので、教育出版でよろしいんじゃないか
と思います。大日本図書は確かに、前はそうだったと思うんですけども、使いやすさという
意味では、やっぱり教育出版の方が良いんじゃないかと思います。

余計なことを申し上げるんですけども、啓林館の理科もなかなかおもしろいんです。おもしろ
いんですけども、今回は旗色があまりよくないようですから

委員長 いやいや、旗色と関係なく意見は。

宮坂委員 いや、教育出版で私は慣れている、先生方も使いやすいだろうし、十分だと思ってお
ります。

以上です。

委員長 私はずっと読んで、教科書もおもしろかったのは大日本図書ですね。例示、いろんなもの
が、どれも似ているものはたくさん出てくるんですけども、大日本図書は他と違うものがある
んですね。だから、さっきの星の星座みたいなものも、あそこに1枚入れてあるのは、なかなか
効くんですね。子どもなんかは喜ぶだろうと。星を見て、何の星座だなんていうのは、私は全然
わからない。しかし、あれを重ねてみて、ああ、そしたら、ここがこういうふうに見えるんだな
というの、とてもおもしろく思いました。だから、私はどちらかという、折り込みの仕方な
んかでも、大日本図書、大日本はおもしろいんじゃないかなという感じがしましたね。

どうしますか、ここは。この論議は。大日本図書なのか、教育出版なのかというところに、だ
んだん絞られてきます。それで、大日本図書が良いとストレートにおっしゃったのは田中委員で、
私もどちらかというそうですが、ただ、教育長は教育出版と大日本でしようと、どっちか、こ
れは並べておっしゃった。宮坂委員は教育出版を支持しますので、このところをどういうふう
に絞っていくか。

對馬委員は教育出版の方が良いとお思いになりますか。

對馬委員 私も最初並べて申しました。ただ、並べて申しあげましたけれども、私も実はおもしろ
さという点では大日本の方がおもしろいかなと。星のシートもそうですね。草むらか何かに興味
を引くところだなと。それで遊んじゃわないかなという気もしないではないんですが、おもしろ
い工夫は凝らされているなという気はいたしました。

もう一つ、教育出版で調べ学習の発展が多いというところは、それは先生の使い方によって、
もしかしたら、理科はそれよりも実験などを重視したほうがいいのかという気も私はしまして、
これは特徴として、先ほど申し上げたというぐらいの気持ちでおりますので、大日本は、おもしろ
いともちろん思いました。

委員長 理科は、3年、4年の小学校の中から上という学年にかかっていくわけですが、日本の

子どもだんだん上学年に行くにしたがって、理科が嫌いになるとかいう傾向はあります。その点では、私は大日本図書のつくり方は、引き込み方は上手じゃないかなと思っておりますけどね。

教育長は、何か言っていただけますか。

教育長 いや、私は、どっちじゃなきゃだめというほどの差はないと思っているんですね。

ちなみに、啓林館の教科書って難しいんですよ。なぜ難しいかという、編集者がほとんど大学の先生で、義務教育の先生が入っていても附属学校の先生。

大日本にしても教育出版にしても、小学校の先生や中学校の先生がかなり入っているということもあるんですね。それで、じゃあ、小学校の先生が入っているから易くなっているのかという、そういう意味じゃなくて、やっぱりその辺、現場でどう使っていくかということなんかも、ある意味では頼りになるかなという感じもしないではないんです。

算数もそうですけれども、本当に啓林館の教科書ってハイブローですね。中学の教科書にだんだん近づいてきているという感じがしています。ですから、読んでいるとおもしろいんです、情報量が多いですから。ただ、授業の中で使っていく時に、もうちょっと易くしてやった方がわかりやすいかな。

そうすると、「たのしい理科」か「地球となかよし」か、どっちかということになるんですけども、どっちとも言い切れない。ただ、この薄くて、机の上にぽんと置いてぱっと開いたときのインパクトと、これ、真ん中から折ってこうやってというのなんかも考えると、こちらの魅力というのはありますね、大日本の。

委員長 今おっしゃったように、東京書籍と教育出版と大日本図書には、杉並区の先生方が編集員に入っているんですね。現役とは限りませんが、そういうことで非常に関係があって。啓林は確かに大学の先生ばかりなんですね。だから、もうそういうところはちょっと変わってしまいました。

それでは、これも算数と同じように、最終的に採択する時に、もう一回討論することにしまして、どっちかという、今の教育長も大日本図書に乗ってもいいというようなお話ですから、私は大日本図書が有力であるというような考え方で、もう一回お考えいただきまして、最終的に採択する時には、何かご発言をまとめておっしゃっていただければ、そこで討議をするということにしたいと思います。

それでは、その次は生活です。

これは、初めに田中さんにまとめていただきます。

田中委員 生活科は7社ありまして、全て1、2年合本になっています。

大日本図書、理科も私、大日本図書が良いなと思ったんですけども、生活科も大日本図書が

すごく楽しく、題名も「たのしいせいかつ」なんですね。他は「せいかつ」とか「みんなとまなぶ しょうがっこうせいかつ」とか、ほとんど生活という、生活は楽しいのがいいなと私は思っているんです。だから、この題名も気に入っているんですけども。

まず、生活ということは、子どもたちが、自分の可能性を知ったり、生活に意欲を持てるかというような感じで、コミュニケーション能力とか、そういうのが発揮できるような視点で見たんですけども、写真とか挿絵も大日本図書が一番見やすく、明るい素材を使っていて、全体的にバランスが良かったかなと思うんですね。各学年ごとの発達段階を考えて、教材の配列が工夫されているし、季節ごとの配列もしっかりしているので、とてもわかりやすかったですね。見ていてすごく、大日本図書が一番楽しく見られました。

あとは、生活の言葉のコーナーなんかも充実していて、杉並区の特徴を生かした学習活動が、発展して展開できるかなというような感じもいたしました。

生き物となかよしのページのデザインなんかにも工夫がとても生かされていて、子どもたちが興味を持って扱えるかなと思いました。

あと、一番最後の巻末の学習道具箱として、生き物図鑑とか言葉の活動例とかが載っているし、それもまた、授業のほかに活用できるかななんて思いました。

あと、自分発見という言葉も、絵のほうで発見というテーマになっているんですけども、やはり今、子どもたち、自己肯定感がなかなか持てないので、自分を見つめ、自分らしさを知って、そういうような取り組みができる、そして家族への感謝もしっかり伝えているというようなことでも、こういうこともしっかり1、2年生の間に教えていくことは大切かなと思って、私は大日本図書が良いかなと思いました。

委員長 宮坂委員、いかがですか。

宮坂委員 私は、基本的な考え方としましては、どの教科書も一応、検定に合格していますから、それぞれの長所あるいは短所、使いやすい、使いにくい。ただ、使いやすさというところになりますと、同じような、どちらかなという時には、やはり今まで使っている教科書を登用した方が使いやすいんじゃないかなという感じは持っております。その意味におきまして、生活についても、大日本図書ということであれば別に異論はございません。

以上です。

委員長 教育長、いかがでございましょうか。

教育長 私も、生活というのは3年生へのつながりをどう考えるかということですか。かつては社会的なところにウェイトを置いているということもあつたし、最近はこちらかという、理料的な内容にウェイトが置かれているような感じもしないでもないんですが、いずれにしても、これ、

理科でもなければ社会科でもない。一番身近なところから、自然や社会との関係を学んでいくというのが、私は生活科の基本的な考え方だと思っているんです。ですから、そういうふうに考えた時に、1年生、2年生が、自分は社会的な存在であるということ、それから、自分たちを取り巻く自然との関係で、どういうものに興味や関心を持って、生き物を大切にしたり、人とのかわり合いを大切にしていくかという、そこを学んでいってほしいなと思っているので、そういうふうに見ていくと、これじゃなきゃだめというのはなかなか選びにくいんですね。

今、お話にありました大日本とか東京書籍とか、このあたりだったら、そんなに不自由はしないかなという感じはしています。

あと、学校図書とか光村とか、それから啓林館、日文とあるんですが、それぞれ現場での指摘なんか見てみると、例えば文字情報が少ないとか、文字情報が多くてほかの資料が少ないとか、あるいは配列の関係であるとか、内容が児童の発達段階に比べるとちょっと多過ぎるとかというような指摘も挙がっています。

だとしたら、あえてそういう指摘のあるところよりは、今お話のあったような2社あたりが適当かなというふうに考えます。

委員長 對馬委員。

對馬委員 私も大日本が良いかなと思います。イラストや写真が大変生き生きしていてわかりやすいということ、それから、特に1年生、入学してすぐの1年生に、四季に合わせて日本の習慣をすごく丁寧に押さえて、わかりやすく出ているなと思いました。あと、伝承遊びなどもありまして、杉並の実態にも合っているなと思います。

後ろのところ、巻末に学習道具箱というところ、まとめてついているところも、爪のようにページをめくりやすくなっています、これも使いやすいのではないかなと思います。こういう部分、資料の部分が別冊になっている会社もありましたが、低学年で別冊にしてしまうと、どこかに無くしたり、忘れてきたりということもあるのではないかなと。巻末につけたほうが使いやすいのではないかなと思いました。

大変、教材が身近な生活に合っているものが多く出てきましたので、この大日本が良いかなと思います。

委員長 私も一言、申させていただきます。四季の扱い方なんか、本当に大日本は上手です。

ですが、光村図書も四季についてはなかなか良くて、そして、光村図書の特徴は、余り説明文がないです。だから絵で説明している。その説明文がないところが、私は割合に気に入りました。

それからもう一つは、大体、その上下になっただけで、上というのは1年生用、下が2年生用なんだろうが、上の終わりのところに大体、もうすぐ2年生なんていうのがあ

ども、光村はそういうふうのない。だから、そのあたりが割合気に入ったんです。

だけど、全体としては、やはり大日本図書が一番、まとまっているんじゃないでしょうかね。今までも使ってきましたし、そういうことからすると、無理やり替えることもありませんので、私も大日本図書ということで、この一番教科書の種類が多いところですけども、有利なのではないかと思っております。

それでは、次はちょっと変わらして、音楽です。

これはどなたからいきましようか。對馬委員から。

對馬委員 音楽は3社ございました。どれも共通して出ている楽曲もあれば、それぞれ別々のものあったり、それから、伝統的なものも、多分かなり重点的にだと思いますが、出ていたりというのが全体的な印象でした。

今使っているのは、東京書籍なんですが、私は教育芸術社というものが良いかなと思います。

これ、版は、サイズがちょっと大きいんですけども、音楽の場合、リコーダーとか鍵盤ハーモニカなどと一緒に別の袋に入れて持ち歩くなどということも多いと思いますので、もちろんランドセルとかお道具箱などには入る大きさということであれば、私は、これはそんなにサイズはあまり気にしなくてもいいかな。逆に大判の分、楽譜などは見やすくなっていますので、これは、大きいということはマイナスにはなっていないような気がいたします。

選ばれている曲なんですけど、今の子どもたちに即した、子どもたちが乗りやすいという言い方をしたら軽いかもしれませんけれども、わかりやすい曲が多く選ばれている気がいたしました。リコーダーも、最初の運指、指の使い方なども非常にわかりやすくできていますので、新しい曲なども入っていますが、それが逆に子どもたちには、通じやすいのかなという気がいたしましたので。先生方のアンケートを見ましても、今まで使っていたのも、曲がちょっとマンネリ化してきているから新しいものを使いたく、教育芸術社のほうがいいなというのが読み取れるような内容のものも多くございましたので、私はこれが良いかなと思います。

委員長 田中委員、いかがですか。

田中委員 そうですね、私も同じような意見なんですけれども、今までの、確かに東京書籍も悪くはないと思いますけれども、やはり今回は、合奏の曲が難しいかなと思うのもありましたし、教育芸術社は、結構、新曲が多くて、私の知らない歌がだいぶ入ってしまして、こういう今取り組みもあるのかなという感じで、発展的な学習とかも取り組めるのかなということ。

大判サイズになった分、楽譜とかがとても見やすくなっている部分もあるし、大体みんな、教科書は今大判になっているので、音楽だけが大き判というわけではないので、大判だからどうということはないと思いますので、東京書籍でも教育芸術社でも、私はどちらでも良いかなということ

ころなんですけれども。

委員長 教育長はいかがですか。

教育長 今、杉並の音楽はとても充実してきているんですね。特に、音楽の先生が合唱指導に力を、もちろん中学の吹奏楽とか小学校での器楽も活発にやっているんですけれども、合唱指導にすごく力を入れていて、学校に行って音楽の時間に聴かせてもらっても、私たちが子どもの頃、地声で歌っていたのに比べると、今は本当に小さいうちから頭声発声というんですか、地声じゃない、きれいな声で合唱、歌を歌うんですね。

今、本当に各学校の音楽が力をつけてきているなと感じます。子どもたちも、よく音楽の合唱の時間というと、ふてくされて後ろに座り、歌わなかったりというのを見る場面もなかったわけじゃないんですけれども、行く度に、そのきれいな合唱を聴くことができるんです。例えば全校の合唱であるとか、あるいは学年、5、6年合同の合唱であるとか、そういったものなんかも聴いていても、かなり力のある合唱になってきている。本当に変わってきて、変わってきたという言い方は悪いですね。充実して、子どもたちも喜んで歌を歌うような状態になってきているというのは、実感でそう思っています。

私、教育芸術社というのは音楽のプロ、言ってみれば、ここは音楽しか出していないんですよ。そこで合唱曲だとか、いろんなものを吟味して出しているということを考えれば、現場の声なんかも聞いても、教育芸術社が良いかなというふうに思います。他のことについては、あまりよくわからないんですけれども、子どもが歌いやすい歌とか、合唱にしたらきれいな歌とかというのは、比較的多く入っていて、現場の先生からもそんな声が聞こえてきています。

委員長 宮坂委員、いかがですか。

宮坂委員 音楽の教科書というのは、これはちょっと難しいので、開いてみると、やはり何となく自分の好きな歌が、知っている歌が多い方が、それに引かれてしまうという傾向はあるんですけれども、どの教科書も、見たところ、選曲のバランスは別に悪くないと思います。昔からの童歌、日本古謡、かつての文部省唱歌、それと現代の歌なんか、よく選曲されていると思います。音楽では、歌うことと楽器を奏でることと、それと鑑賞することと、両面ありますが、このバランスも別に悪くないと思います。

こうして、じゃ、おまえはどれが良いんだと言われると非常に困るんですけれども、やはり原則的には使い慣れている東京書籍でどうかなという感じはいたします。

以上でございます。

委員長 東京書籍が一番、例えば歌の数は、私は多かったと思いますが、やっぱり教育芸術社の方が、いろいろと工夫しているという感じですね。

それから、大判だというのがありますが、この音楽とか図工とかいうものは、教科書をぱあんと開けて閉じないものが良いと思うんですね。他のはまだ自分でも押さえていてやれますけれども、もちろん開ければそれが良いですが、国語なんかはもっとページを繰りながらそうやっていきますから、開きっ放しというのは、あまり必要じゃないんですけども、音楽と図工は、私は特に教科書のあるページを開いておさまりがいいというのが、良いと思うんですね。そういう点では、私は教育芸術社というのは良いんじゃないかなと思っています。大きいですし、見やすいですね。それから、楽譜なんて小さいから、大きいほうがわかりやすい。

それでは、その次、図工にいきましょうか。

宮坂委員 音楽はどれに決まったんですか。東京書籍ですか。

委員長 教育芸術社。

宮坂委員 教育芸術に決まった。

委員長 はい、どちらかというとなんか有力なんじゃないかと思います。

それでは、図工、宮坂委員からお願いします。これもやっぱり教科書の数は少ないですね。

宮坂委員 そうですね、これも3つしかありませんので、ちょっと迷ってしまうんですけども、調査委員会の報告書を一通り読みましたんですが、どの教科書も概ね好評で、すみません、これはだめだというのは特になかったんです。

東京書籍、一つ一つ見ますと、東京書籍は一教材について見開きに広げて両方見られる構成になっておりまして、日本の伝統的な遊びも、3、4年ではチャレンジ広場で、例えば竹馬だとか、けん玉なんか、結構、満遍なく取り上げています。

開隆堂も、各学年では、みんなのギャラリーという項目があるんですが、そこでは見開き、これは3ページになっています、広げて、さらに外に広げていきますと。やはり、各地の伝統的な行事、例えば東京では墨田区の赤い物語、石川県金沢市の加賀友禅、それから青森のねぶた祭り、奈良県の采女祭りですか、奈良市でやった。こういうのを満遍なく取り上げております。やはり、そういう意味では勉強になると思います。

それから、日本文教出版ですか。これも材料や用具の解説が、はさみ、ナイフ、金づち、ペンチなどの使い方にも触れておりまして、非常に良いと思っております。でも、5、6年のものでは「味わってみよう、日本の美」というようなものを設けまして、日本に昔からある絵巻物、扇、掛け軸、屏風、根付け——小さな飾り物ですね、などの説明も見られておりますので。ただ、この日本文教出版の教科書は、他の2社に比べてちょっと大きいんです。ちょっと大き目ですが、この程度だったら、別にランドセルへ入りにくいとかそういうこともないと思いますので、まず十分だと思います。

そんなことを言っていて、じゃ、おまえはどれが良いんだと言われると非常に困るんですけども、いずれも捨てる気持ちはありますが、慣れている、使いやすいと、今までという意味では、やはり日本文教出版でよろしいんじゃないかなと私は感じております。

以上です。

委員長 教育長、いかがですか。

教育長 いや、本当に難しい。次にある家庭科もそうなんですけれども、甲乙つけがたしというので。例えば、算数とか理科だったら同じ単元を並べて、どれが良いかなという見方ができるんですが、ほぼどれも扱っているものも内容も同じなんです。まさに学習指導要領に準拠して、つくられているという。だから、正直言って、本当にこの図画工作は悩みました。

悩んでいてもしょうがないんですけども、例えば、今、作品の凡例というか、サンプルとか、何か作品をつくっていく上での手順であるとか、そういったものは、私は、あまり断定的じゃなくて、子どもが見て、ああ、すごいなと思ったら、それを超えるものを作ってみようというような、意欲をかき立ててやるようなものであれば良いなと思うんです。「こういうふうにして、こういうふうにして、こういうふうにして、こういうふうにしていけばできますよ。」という形で誘導してしまうのではなくて、子どもの発想とか、その時の経験とかというものを生かしていくことができれば良いだろうと。

図工の先生なんかと話していても、やっぱり勝負は実際に作ったり、描いたりするところで、教科書はあくまでもガイドブックだからという話をよく聞くんですね。そういうふうに考えたときに、どれが良いか。いや、本当に悩みます。

開隆堂とか日文というのは、言ってみれば、これ、特に開隆堂は図画工作なんかは古い歴史を持っていますし、日文なんかもそうですね。そういうふうに考えていくと、この3社の中でどれかといえば、開隆堂か日文が良いかなという感じはしています。

委員長 いかがですか。

對馬委員 私も、この3社、先生方から来たアンケートを見ても、本当に甲乙つけがたし、特にこれがだめという表記は見受けられなかったと思います。

見受けられないとすると、今使っている日文というのでいいのかなと思っていて、この教科書を見ていきますと、図画の作品例の数なんか非常に適当かなと思いますので、特にたくさん出過ぎていても多分図工なんかはいけないのかなと。幾つか例があって、自分もつくってみたい、ここにはないものを作りたいという範囲のものが調度良いのかなと思っていると、そういった意味で数も適当で、バランスもいいかなという気がいたしました。

それから、巻末に道具の使い方などが、まとめて学年ごとにあるんですけども、これも非常

に見やすく、使いやすいかなという印象があります。

田中委員 私もそうですね。やっぱり3社は本当に、どこがどうという、甲乙つけがたいなと思って、難しいなと思っておりました。

ただ、開隆堂は写真が少しごちゃごちゃして、見にくいかなというところはあったんですね。

そういう点、日本文教の方が、子どもの写真とかの表情とかが明るくて、何か良かったかなと思いますし、あと、内容がやはり丁寧に扱っている部分もあるかなと思って、工作とか絵画とか、造形遊びのバランス的なものが、日本文教が一番良いかなと思って。やっぱり創造力だと思うんですね。一応、本当に教科書はあくまでも参考で、こういうものを、自分の発想が展開されるような指導になっていくんだろうと思うので、見た感じでは、写真とかもきれいだったのは日本文教かなと思いました。

委員長 他の教科と違って、この図工という、音楽もちょっとそうかな、音楽はやっぱり系統があるんですが、図工はもう系統もないんですね。だから、どれが先に出てきても後に出てきても、そんなに違和感がないですね。それで、ねらいは3つあって、図画であれば描くこと、それから工作であれば作ること、それから、そういう美術の鑑賞みたいなものが入ってくると思うんですけども、どれもそんなに違わない。

それで、日文が一番いろんなものが入っていて、何でもあり、それから何でもやってみようという、時間があれば、いろんなことをやれるようになっていました。

それから他は、お二方もお述べになりましたが、ページごとに、初めに気をつけようというのが出てきて、それから片づけがあって、そして一番最終にまとめがある。そういうことが、ページごとにずっと出てくるという面、日文が一番行き届いているという感じがしましたので、私も3社の中では、日本文教出版のが一番良いんじゃないかと思います。さらにつけ加えれば、今までも使っているということもあるかもしれません。

それでは、その次は家庭です。

じゃ、教育長に初めに伺います。

教育長 2社ですね。東京書籍と開隆堂なんですけど、本当にどっちでもいいかなという感じがするぐらい似ています。似てはいるんですけど、入り方が違うんですね。

例えば、開隆堂は、金銭や物の使い方を考えよう、計画的に生活をしようという、ダイレクトに今、言われているところの金銭教育とか、消費者教育とかというところの単元を起こして入ってくる。それに対して、東京書籍の方は、「工夫しよう、賢い生活」という単元の中で、非常に身の回りのものを見直して行って、さらに品物の買い方を考えようという、この辺が違うんです。

それからもう一つは、より良い生活を目指そうという、家庭の最後、言ってみれば究極の目標

ですね、家庭科の。地域とのつながりを広げようという単元が一番後ろに出てくる。東京書籍の方は、「伝えよう、ありがとうの気持ち」という単元でずっと行って、家庭へ、地域へ、ふれあいを広げようという、それも出てくるんですね。

どちらかというと、開隆堂の方が単元の構成が非常に明確で、最初に、どんなふうに、何を目指すのかということがわかりやすいという感じはします。じゃあ、東京書籍がだめかということ、そうでもないの、今度は、いろんなもの、使うもののレシピとか、そういったものから見ていくと、東京書籍も捨てたものじゃないなというふうに思えるところがたくさんあるんですね。

そんなこんなで大いに悩みましたけれども、どちらかにしなくてはおさまりがつきません。先ほどの、例えば「お金の使い方を考えよう」と、「金銭や物の使い方を考えよう」あるいは、「地域とのつながりを広げよう」という形で、明確に最初に訴えているあたりを買って、開隆堂がいいかなというふうに思います。

委員長 いかがですか。どうぞ。

對馬委員 本当に図工と一緒に、これ2社も甲乙つけがたいというか、大変似ている。どちらも、ほかの教科書に比べて、1ページの中の情報量が多い気がします。悪く言えば、ごちゃごちゃしているといえますか。その分、ページは薄いといえばそうなのでしょうけれども、見やすいという点でいくと、どちらも似たような感じ。写真もイラストも多く、文字も多い。高学年は仕方が無いのかなという気もしなくもないんですが。本当にこうして出ている写真なんか非常に似通っていて、本当にどちらと言いたいです。

教育長がおっしゃるのを聞いていると、そうかとも思いますが、私は東京書籍の最後の、みんなに感謝をするというところが、小学生の最後のまとめとしては、非常に身近でわかりやすいのかなと。地域とかまで広がるよりも、家の中とか先生とか、そのあたりに感謝するというのは身近でわかりやすいかなという感じはしました。

どちらも大変似ているなど。だから、こちらの開隆堂が悪いとか、そういうことではないです。開隆堂でももちろんいいと思います。

田中委員 同じようなんですけれども、本当に似たり寄ったりだと思いますけれども、東京書籍の方が、レイアウトが、お料理とかお裁縫で違うんですよね。だから、横にはなっているんだけど、何か目が追にくいとか、疲れるとか、こっちを見て、あっちを見てという感じで、ちょっと扱いにくいかなと思ったんですね。

開隆堂の方は、チャレンジコーナーとか、チェック表があったりして、学習内容がほとんど似たようなものなんですけれども、少々わかりやすいかなと。

確かに東京書籍は、お茶の入れ方とか、卵のゆで方とか、本当に結構、細かいところまでいろ

いろ説明されたりして、情報としてはすごくいろんな面が網羅されているかなと思うんですけども、どっちかといったら、どうかな、開隆堂の方が。開隆堂の方は、左ぎっちょの子も今多いですよ、左手の包丁の持ち方というのが写真入りで載っているんですね。だから、そういう面でも、公平性を見たら、開隆堂の方が良いかなと思うところです。

委員長 宮坂委員、いかがですか。

宮坂委員 私は、どちらかと言われても困るんですけども、開隆堂の方は、内容が論理的に何かまとまり過ぎているような感じがいたしました。

でも現在使用の東京書籍というものは、学習内容というものを押さえやすく、環境についての単元としても取り上げておりますので、私は、どちらかという使いやすい、今まで使っているという意味においては、東京書籍でも良いのではないかと。あえて取りかえる必要もないんじゃないかなという、その程度の気持ちです。

委員長 私は、どちらかという積極的に開隆堂の方が良いという。

まず最初に、一番最初に5、6年生のまとめというのがありまして、どういうふうに計画をして勉強していくかというのが出ている。

それから、毎日の食事なんかでも、どっちも似ています。東京書籍もとても似ているんですけども、黄緑野菜をどういうふうにするかとか、それからチャレンジコーナーという、非常にうまくまとめている感じがしました。

縫い物のところは、東京書籍は縫い物の後からミシンが出てきて、なかなかうまい順番になっているんです。開隆堂はミシンが整理整頓の後に出てきて、ちょっととにかく、少し戸惑いがあります。

それから、東京書籍はお茶やお菓子のコーナーがあったりして、とても楽しい部分がありますが、それに対抗するものとしては、開隆堂はお雑煮の種類とか、結構いろいろ新しい、おおそうかというのがあります。

それで、扱い方全体としては、私は開隆堂の方が上手だと思いますので、私はどちらかといえれば開隆堂。

しかし、これは、そうなりますと結構、開隆堂と東京書籍と並んでいますので、もう一回この辺はいただいて、最終的に決める前にもうちょっと討議をすると。ただ、討議だけあまり長くしますと、とても疲れますから、これについては、もう一回だけ最後にお話をしてまとめたいと思います。

それでは最後に、またこれは教科書の種類が多いんですが、保健です。

これは田中委員から、まずお話を伺います。

田中委員 はい、5社ですね。3、4年、5、6年、合本になっております。

やはりこれは、本当に子どもたちが心の発達とか体の発達とか、自分で、自分の目で自分というものを見つめながら取り組んでいく教科書なんだろうなと思って、発達段階においても、写真とか挿絵とかがわかりやすいものが良いのかなとか、あと、課題によって、それが解決策になっているのは良いのかという視点で見えていったんですけれども、私はやはり、今現行使っている学研教育みらい社のものが良いと思いました。

文字によるあらし方とか、イラストによるあらし方が上手に使い分けていて、とてもわかりやすいし、3、4年生の教科書にはほとんど漢字にルビが振ってあって、子どもたちには読みやすく、わかりやすいかなというところもありました。

あと、ワークシート形式になっているので、みんなで一緒に考えられて、授業が進められていけるかなというところもありますね。

あと、写真もいろいろ、イラストとともに効果的に使われていて、全体的にすっきりまとまっているような感じもしました。

あと、情報も得やすいように、工夫もされているし、興味を持って扱っていけるかなというところでは。

委員長 對馬委員、いかがですか。

對馬委員 そうですね、私も、薬物であるとか、たばこの害であるとか、それから発達の部分であるとか、いろいろ見ていきまして、現行使っている学研は、やはりわかりやすくまとまっているかなという気がいたしました。

これが、この保健の中でということではないんですけれども、他の教科、社会とか理科とか、いろんなところでイラストがあって、吹き出しでいろいろ子どもたちに何か台詞を言わせる場面が非常に多く、いろんな教科書に使われているんですが、私がすごく気になっていたのは、女の子の言葉遣いがあまり、私はもう女の子の言葉遣いではないということ、今どきの子はそうだからなのかもしれないんですけれども、何とかだよとか、何とかだねというのは、女の子でも非常に多くありまして、この学研の保健の教科書の女の子は、割と女の子らしい言葉遣いをしているんですね。それが私は非常に好感を持てまして、そういうのがあってもいいなと。社会、理科を見たときにそう思っていたものですから、この教科書、その点では大変、好感が私は持てました。

全体的には、これ、そう厚くもなく、よくコンパクトにまとめられていて、使いやすいのではないかなという印象がいたします。

委員長 宮坂委員、いかがですか。

宮坂委員 私も、今、對馬委員がなかなかいいことを言いましたけれども、らしくありなさいと言

うと、また古いと言われるかもしれませんが、やっぱり教科書の書き方の中でも、男らしくとか女らしくとかというのは、こういう何でもない言葉の中で使うというのは、やはり広い意味では保健の一種ではないかと思います。

それと、これは田中委員が申し上げたんですか、何かルビが振ってあるのが非常に多いということ。私もまぜ書きというのはあまり好きじゃないので、保健本来の目的とちょっと違っていませんけれども、そういう意味では、教科書としてのあり方では、やっぱり学研が一步進んでいるかなという感じはいたします。

内容的には、正直言います、あまりよくわからないんですけれども、いろんな薬物といいますが、薬害だとか、酒、たばこの問題については、それぞれにやっぱり載せておりますので、その辺ではやはり使いやすい意味では、今までも使っておりましたので、学研でも良いんじゃないかなという感じはいたします。

以上です。

委員長 教育長、いかがですか。

教育長 保健の時間というのは、なかなかとりにくいんですよ。ただ、昔みたいに、雨降ったから体育やめて保健にしようという、そういう気楽な取り扱いじゃなくて、きちんと科学的に扱わなきゃいけない疾病の問題であるとか、感染症の問題であるとか、薬物の問題であるとか、今、課題がすごく多くなってきているんです。だから、そういう意味では、保健の教科書をこれから吟味していく時に、年間の授業時数の中で、必要最低限のことをきちっと修めて、その発達段階に応じた基礎的な知識を身につけることができるような構成になってほしいなというふうに思うことはあります。

そんな観点からずっと見ていって、これじゃなきゃだめという、これが一番良いというところまで行き着かないんですが、3人の方もおっしゃっていましたが、学研がポイントを絞って説明をしていく、それから、絵とか説明、解説を効果的に使って、わかりやすくしているとか、特に解説の部分、長々と説明しないで、わかりやすく端的にまとめておくという、そういったことから考えれば、幾つかある中で、学研みらいが良いかなというような感じを持ちます。

もう一つは、今、体力の向上、健康増進ということで、日常的に生活の中に体を動かしたり、自分の健康のことは自分で考えて生活をしていくことができるような、そういう指導をしていくということで、例えば東田小であるとか、三谷小学校であるとかということですね。特にこの運動をやって優れた成績を残しましょうということではなくて、1日の中で体を動かす、それを毎日毎日、継続的にやっていく。それを習慣化し生活化していく中で、自分の体力を伸ばしていく、健康な体をつくっていくという、そういうような流れを今杉並では進めているところですよ。

けれども、そんなことも含めれば、学研で良いかなという感じはします。

委員長 私は、意外や意外、光文書院というのがおもしろかったと思うんですけども。これは、皆さんとにかく学研が良いとおっしゃっているので、もう学研で決めれば良いと思いますが。

光文書院って、とにかく小学校の教科書に出てこないんですね。伺いましたら、何か高等学校の教科書を割合、メインだそうなんですけれども。保健の一つの中で、例えば薬物、薬物といっても一番重要なのはたばこ、酒だと思いますが、ほかの麻薬類はそんなにこの段階で、小学校の段階ではそんなにならないと思いますけれども、そういうのをバランスをどういう風に使うかという説明は、私は光文書院が一番良かったと思います。

しかし、もちろん学研教育みらいも良いですし、他の東京書籍、そんなに違いはないんです、これは。ですから、そういう意味では、従来からも使っておりましたし、皆さんが学研教育みらいが良いとおっしゃっているので、私もそこへならいまして、これはもう学研みらいで良いだろうと思います。

それで、最終的に決めるに当たりましては、一回事務局で整理をしていただいて、そしてもう一回おさらいの討議をして、最終的に決めたいと思いますが、今この段階で何か言っておきたいというようなお話があれば伺います。いかがでございましょう。他に何かありませんか。

それでは、一回休憩しまして、その間にまたお考えいただいて、最終的に、特に大きいのは算数と理科、それから家庭でしょうか、そのあたりをまた、少しご意見を伺ってやりたいと思います。

それでは、どの位休憩しましょうか。事務局の方で整理に当たる都合では、どれぐらい必要ですか。

じゃ、4時5分ですか。10分ぐらい休憩しまして、4時5分から再開いたします。ちょっと休憩にします。どうぞよろしく申し上げます。

(休憩)

委員長 再開をいたします。

教科書の採択で決めることになりましたが、一言、私が申し上げておけば。

実は、教科書会社は全部、教師用というのを出しているんですね。いろんな設問をしたり、こうしましょうという問題が、国語でも算数でも出てくるんですが、そこについて、実は教師用があって、こういうふうにやりましょうというのがあるらしいんです。私は見たことがありません。しかし、あるそうです。それからすると本当は、私は、教科書の検定の中身も、そういうものも見て、文科省は検定を決めるべきであって、そこにいい加減なことがもしも書いてあるとすれば——ないと思いますけれども、もしもそこが今、充実していなければ、先生が教えるときに非常

に障害になります。だから、私はそこもやるべきだと思っております。それなしのままで決めるわけですから、私は、今の教科書採択には若干の欠点が伴っていると思っております。

しかし、そんなことを言ってもしょうがありませんので、今日はこの段階で、先ほどの教科順に教科書を決めなければなりません。

それで、国語からになります。これについては割合皆さんの意見が一致しまして、従来からも使っております光村図書でいきたいということでございますが、それは、改めて何かおっしゃることございましょうか。

事務局次長 委員長、すみません、会議の前に冒頭、ちょっと一言。

委員長 田中さんが何かおっしゃりたいと。失礼しました。

田中委員 すみません。先ほど、包丁の使い方、私、左ぎつちよと発言いたしましたが、左ききと訂正させていただきます。すみませんでした。

委員長 私はあまり、こういうもの好きではありませんで、一言余計に言えば、特に差別の意識があつて言っているとか、そういうことでなければ、私はあまりとがめるべきではないと思いますけれども、ご本人が言い変えたいとおっしゃっているので、それはそれで承いたします。結構でございます。どうもありがとうございました。

それでは、国語につきまして、光村図書ということに何かご意見ございましょうか。

特になければ、それでは、来年の教科書、国語は光村図書といたします。

それから、書写は先ほど申し上げましたが、大体、国語と連動ということにしておりますので、光村の書写ということでご決定、お願いしたいと思っております。

それから、3番目は社会です。これも割合に皆さん一致しまして、説明の仕方や行き届き方、人物のとらえ方について、東京書籍。従来から東京書籍ですが、東京書籍が良いということでございますので、これも東京書籍と決定をしたいと思っております。

それから、地図はいろんな意見もございしますが、やはり地図等の完成度、それから、今までも必ずしも社会と連動していなくて、やってきて特に差し支えがないということでございますので、帝国書院の地図ということにいたします。

その次は議論がありまして、従来から啓林館、それから今回は、啓林館の、非常に教科書として立派なものではあるけれども、どんどん先へ行ってしまうと。だから、できる子には良いかもしれないが、できない子は追いつけない。たしかに、算数が一番、後から追いつくのが難しい教科です。

アメリカやヨーロッパでは、小学校段階でも、言うなれば落第と、これも差別用語になるのかどうか分かりませんが、原級にとどめて、もう一回やらせて、ちゃんと力をつけて上に行くとい

うことを非常に重視しております。私もイギリスにいたことがありまして、それはメリットがあると思います。

わからないで上へ行ってしまうと、もう、1時間でも40何分も、わからないままで教室にいるのは、子どもにとっても苦痛だし、喜びもないと。だから、一遍下がってでも、もっとそこをやって、わかったという喜びを与える方が良いと思っていますが、日本の制度では、なかなかそれは今、難しいと思います。そうすると、少人数クラスだとかいろんな形で、また、時には居残りをさせて、先生が追いつかせるということをしなけりゃなりません。そういうことができるだけ少なくていけるということがあれば、私はそこは大事なことだと思っています。

そういう点では、啓林館ではなかなか追いつくのは難しいということで、教育出版の方がいろんな角度で、特に分数の問題で。分数というのは大学生でも、とにかく分数を掛け算をやらせると間違いがたくさんいるそうですから、そういうことからすると、行き届いているというのでは教育出版だということで、これはご意見が分かれました。それで、これについてもう一回、皆さんのご意見を伺って、最終的にまとめたいと思います。

それで、啓林館を一番強く押していращるのは宮坂委員ですけれども、啓林館でなくてはならないというようなご主張がございますでしょうか。

宮坂委員 いや。皆さん、そういう意味であれば、別に他の教科書でだめだというわけではないんですが、私はただ、その理由になっているのが、できる子をさらに引き上げるためというふうな、何か誤解のような感じがすると思いますので、そういうのも申し上げたので、啓林館の中には、少人数指導というのが選択できるようになっておりますので、そういうことはないんじゃないかなとは私は思います。

ただ、一般の実際に教壇に立っている先生方が、そういう気持ちが多いということであれば、現場で私は教壇に立ったことはありませんから、やっぱり教えるににくいということであれば、いくら私が良い教科書だと思っても、それはやむを得ないんじゃないかと思いますので、あえて拘泥はいたしません。皆さんがそれで良いということであれば、良いと思います。

一つ誤解のないように言っておきますが、私は、できる子の足を引っ張ることだけは、絶対にやめてほしいなと思っています。やっぱりできる子をどんどんどん伸ばすということ。現実には、杉並区の成績というのは良くなっているんです。算数も非常に良くなったんですね、テストの結果でも。ですから、その辺は、教科書が良いのか、先生が良いのか、生徒の質が良くなったのか、いろいろな原因が複合的になっているんでしょうけれども、やはりできる子というものは、どんどん伸ばしてやるというのが大事じゃないかと思っております。そのためにどの教科書がいいかということで、教育出版が良いというのであれば、もちろんそれで構いません。

以上です。

委員長 私は、習熟度別少人数教室というのも、公開授業なんか行きましたけれども、追いついていけない子の方にも、実は少人数クラスというのでまとめてしまうのも無理だろうと。少人数の中に、もっとわからない子と、ある程度、ああそうかと言って、補充してやればわかる子との、2種類がいると思うんですね。その点では、遅れている子を追いつかせるのは、とても難しいという印象を私は持っております。

いかがでございましょうか。新しくお入りになった教育委員として、どうお考えになりますか。対馬委員から伺いましょうか。

対馬委員 私は、最初から言っているように、やはり啓林館はちょっと上のレベルに合っているような印象を受けます。もちろん、宮坂委員がおっしゃったように、別にその子たちだけを対象にしているとは思っておりませんが、全体を、公教育なので、やはり一番下の子をどんどん上のレベルに上げていく、それが大事ではないかなと思いますと、啓林館ではない、要するにどんどん進んでいくタイプではない教科書が良いのではないかなと。その中で教育出版が良いのではないかなということであれば、教育出版の教科書が採択されたらよろしいかなと思います。

委員長 田中委員、いかがですか。

田中委員 同じなんですけれども、やはりわかった喜びを教えていきたいと思うので、説明がしっかりどの子にも行き届くようなわかりやすさが大切なんじゃないかなと思って、私は、啓林館よりも教育出版とかの方が公立としては、全ての子どもがやはり理解して。やっぱりわからなかったらおもしろくないですからね。そういう視点から、わかりやすい教科書を選びたいと思います。

委員長 それでは、もう一度教育長に伺います。いかがでございましょうか。

教育長 啓林館ができる子用で、教育出版が理解の遅い子用というふうに私は考えてはいないんです。教育出版のほうはステップを小さくして、そこでの理解、それを踏まえて次の考え方、つまり、論理的に構造的に考えていくということを重視している。啓林館も同じなんです。論理的・構造的なんだけれども、そのステップの幅が大きい。だから、そこをちゃんと埋めていけば、別にできる子とか、できない子とかということにならないんだけど、大事なことは、たくさん問題を解いてできるようになるということではなくて、事の本質とか、解き方とか、そういったものを自分なりの理解できちっと構造的にとらえていく。つまり、論理的に説明ができるということが、数学的な考えをこれから発展させていく時に一番重要だと思うんですね。

そういう意味では、難しいとか難しくないとかという議論だけではなくて、学びの構造がきちっと段階を踏んだ形、それもわかりやすい形で、並べられているかということ私を重視しよう

と思ったんです。だから、そういう意味で、何遍も言っていますけれども、教育出版に一日の長があるかなというふうに思います。

委員長 今は私も、1つずつ片づけていって、ここまではわかった、その次、これがわかったということからすれば、啓林館は、やはりちょっと先走っているところがありまして、非常におもしろいんですね。先走っているので、他の教科書より、えっ、もうこんなことがあるのというおもしろさはあるんですが、その一つ一つを子どもにわからせて、次へ進むということからすれば、私は、それは案外教育出版のほうがこの際はいいかなと思いますので、宮坂委員にそれに同意していただけるならば教育出版でいきたいと思いますが、よろしゅうございますか。

宮坂委員 わかりました。結構でございます。

委員長 それでは、算数につきましては、これにまだございますか、何かおっしゃることが。なければ教育出版ということにしたいと思います。

その次は理科ですが、これも大日本図書と教育出版でいろいろ意見が分かれました。それ、どちらも良いということですが、より良いものを探していきたいと思います。

それでは、田中委員、追加しておっしゃりたいことがありますでしょうか。

田中委員 私は、やはり大日本図書の方が見やすく、何か楽しく授業が行えるかなという。あと、上下が別になって、教育出版は合本ですよね。大判になっていて見やすいのは大日本図書かなと思います。やはり先ほど申し上げましたけれども、工夫がいろいろされているところで、興味を引いた子どもたちが勉強できるかなと思っていますので、大日本図書のほうが良いと思います。

委員長 對馬委員は、調べ学習の点で教育出版の方が、良いんじゃないかというお話だったと思うんですけども、いかがでございますか。

對馬委員 私は調べ学習の発展系が多いなという印象を教育出版のほうに持ちましたが、私も、おもしろさという点は大日本の方が、おもしろいなというふうに印象持っておりますので、大日本図書の教科書でよろしいかと思います。

委員長 宮坂委員、いかがですか。

宮坂委員 私も、皆さんが大日本図書であれば、もうそれに異論はございません。

ただ、従来使われているので、先生方の立場とすれば使いやすいのではないかという意味で教育出版が良いのではないか、という意見を申し上げたので、特に拘泥いたしません。

委員長 教育長、いかがでございますか。

教育長 私も、この「地球となかよし」というコンセプトにあえてこだわって、教育出版がいいかということでもう一つに挙げたんですけども、今のお話の中で大日本も、教育出版でなきゃならんというふうに考えてはおりません。それでよろしいかと思います。

委員長 私も従来から使っている教育出版のものは非常に良いと思いますけれども、今回は、子どもたちがやっぱり理科というものに興味を持たないと先へ行きませんので、そういう点では、大日本図書が良いかなと思っています。

それでは、大日本図書でよろしゅうございますか。

(「はい」の声)

委員長 それでは、理科につきましては大日本図書ということにいたします。

それから生活科は、そうしますと大日本図書で皆さんいいということでしたが、これは理科との関連、社会ともあります、いろいろとつながっているところがありますので、大日本図書ということにいたします。

その次は音楽です。これは従来、東京書籍を使ってきまして、いろんな歌が入っているんですが、なかなか音楽も難しいんですが、教育芸術社ということで割合にまとまっておりますので、教育芸術社ということでよろしゅうございますか。何かさらにご意見ございましょうか。

それでは、教育芸術社ということにいたします。

済美教育センター副所長 委員長、一点よろしいでしょうか。申し訳ございません。

現在、音楽につきましては東京書籍を採択しております。実は1年、3年、5年で合本の形をとっております。1、2年、3、4年、5、6年という形で合本になっておりまして、次年度、このまま東京書籍を使用していくのか、それとも、教育芸術社を今回採択したら、教育芸術社で次年度を使うのかということを決定しなければなりません。申し訳ございませんが、次年度の扱いだけ一つ決めていただければと。

委員長 そういう例外もあるんですか、次年度だけというのも。合本になっていると、半分使わないで別になるということなんですね。

済美教育センター副所長 そういうこともございます。

委員長 ああ、そうですか。何かそれ、私は気がつきませんで。

いかがでございましょうか、そういうことは。

對馬委員 そうですね、今のここに出ている東京書籍、私自身が見た東京書籍は6冊になっておりましたものですから、気がつきませんでした。

ただ、現場の音楽の先生は、例えば2、4、6年生が東京書籍を使って、1、3、5年生が合本ではないものを使うというのは、どうなんでしょうか。

済美教育センター副所長 様々な考え方がありますがけれども、そこは大きな混乱はないというふうに思います。

對馬委員 そうすると来年、要するに、今使っている教科書を継続して2、4、6年生が使うか、

2、4、6年生も含めて、全て替えてしまうかということを考えてほしいということで。

済美教育センター副所長 そういうことでございます、はい。

委員長 田中委員、いかがですか。私はもう全然。

田中委員 この教科書で考えてしまったので、そのこのところの視点がちょっと足りなかったですね。

どうなんですか、替えてしまうという。2、4、6年生が現行の教科書を使うよりも、替えてしまうということができるのでしょうか、新しい教科書に。

済美教育センター副所長 先ほど議論があったように、教材の重なりは若干あるかもしれませんが、目指すところというのは同様でございます。音楽のねらいを達成していくための教科書でございますので、こちらで全ての学年を採択がえをするということも可能でございます。

對馬委員 ちょっと伺ってもいいですか。この東京書籍を採択した場合には、今使っている学年の合本の分はどういうふうになるんですか。同じですか。

済美教育センター副所長 移行的な扱いになって、合本のものを次年度使用して、その次の年から新しい形になります。

委員長 わかりませんが、私は全学年使うものだと思っていました。

済美教育センター副所長 失礼いたしました。ごめんなさい、私、間違えておりました。教科書が合本ということはなく、全学年、次年度から新しい教科書になります。

對馬委員 では、どこを採択しても、それは一緒ということですね。

済美教育センター副所長 はい。

對馬委員 わかりました。

それでは、私は教育芸術社で、皆さん、先ほど意見が一致しているので、それで良いかと思いますが。

委員長 私も、もうとにかく全部替わって、というふうでも良いんじゃないかと思うんです。合本の分は、もうそれはご破算といいますか、去年の分は去年の分ということで、良いんじゃないでしょうか。

それでは、よろしゅうございますか。

(「はい」の声)

委員長 教育芸術社に。

宮坂委員 ちょっと確認なりますけれども、教科書がかわりますよね。そうすると、1年から6年の教科書を持っているのは、2年になった場合には、1年生は新しい教科書になりますから、2年生、3年生、4年生は、前の教科書は廃棄するみたいな形になるわけですね。

済美教育センター副所長 **原則**、使用しない形になります。

宮坂委員 使用はしない形になるわけですね。

委員長 それの方が、私はすっきりすると思うんですけどね。前のが少し残るというのも逆に何か変だと思えますから。

それでは、教育芸術社に新しい教科書を決めます。

図画工作も日本文教出版で皆さんが一致しましたので、これでいきましょう。

その次、家庭科が開隆堂と東京書籍ということで、どちらにするかということで、これはどうですか。

田中委員 難しいですね。どちらも本当に教材としてはたくさん、中身が豊富で。

ただ、実習に入ると、お料理でもお裁縫でも、直接教科書は、あまり使わずに、先生の指導で流れていくんだと思いますので、どうでしょうね。資料として参考になるのは、開隆堂の方でしょうかね。

委員長 教えるという部分がそんなになくて、実際に同じものですね。やってみようとか、そういうことですよ。だから、教科書としても、指導要領に非常に忠実につくってありますから、両方とも同じようなものになってくるんだと思うんですね。だから、あとはイラストだとか、ちょっとした注意書きみたいなところに差があって、余り違いは認められないんですね。

宮坂委員、いかがですか。

宮坂委員 皆さんの意見に一応賛成します。従います。特に私はこうしてくれというほどの強いあれは正直言って、ないものですから。

委員長 對馬委員、いかがですか。

對馬委員 そうですね、私も、実習に入った時にあまり、教科書を広げて見るということ、恐ろしくないだろうと思います。

ただ、配列として、先ほど委員長がおっしゃったように、お裁縫等を出す、その後、ミシンにつながっていくものの配列は、東京書籍のほうだったと記憶しておりますので、何となくその方が流れがいいな、という気はするんですけども、開隆堂じゃ困るというほどの強い意見を持っておりませんで、開隆堂でもあまり差がないような気がしますので、非常に困っております。

委員長 もうそうですね。

教育長、何かご意見、いかがでしょう。この辺、いかがでしょうか。

教育長 本当に困りますね、これはね。私は、だからあえて選ぶとしたら、さっきの消費者教育、金銭教育というところの単元を起こして、入れてきたということと、最後に、これからの家庭生活と社会ということで、ともに生きるという、その認識の広がりですよ。社会の中で生きていくという、そういったことを最後にまとめている。あえてどちらかにするという根拠を言うとする

れば、その2つで開隆堂が良いかなと、そう思います。

委員長 私は、それほど強い要望はないんですが、全体を読んで、見て行って、開隆堂の方が、むしろ魅力があるかなと、強いて言えば。似ているんです、とても似ているんですけども、開隆堂の方がそういう部分あるかなと思いました。

それでは、宮坂委員、開隆堂でもよろしゅうございますか。

宮坂委員 はい。

委員長 それでは、開隆堂で決めたいと思います。

その次は保健。これは学研教育みらいが皆さん良いということでしたので、これも何かご意見がありますでしょうか、追加して。

では、なければ、これは学研教育みらいということにいたします。

それで、これで議案第83号の杉並区立小学校において使用する教科用図書、平成23年度～26年度、4年間の採択についての審議を終了いたします。

教育長 委員長、最後に。最初の私の発言で、ちょっと訂正したいことがありますので、許可をお願いします。

一番最初に国語の定番の話で、「大造じいさんとガン」と「ごんぎつね」の話をしましたがけれども、私は三省堂のところで、「ごんぎつね」は言ったものの、「大造じいさんとガン」の話をしなかったんです。「大造じいさんとガン」は三省堂にも載っております。

そういうことで、別に三省堂を外したわけではありません。その5社に載っておりますので、4社と言ったのは、話の流れの中で、私が取り上げた別の話をしようと思ったことであって、三省堂をわざと外したわけではありませんので、訂正をしておきます。

委員長 わかりました。それでは、それは議事録に追加をします。

それで、この審議は終わりました。

それでは、続きまして日程第2、議案第84号「杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（平成23年度使用）の採択について」を上程し、審議いたします。

済美教育センター副所長から説明をお願いいたします。

済美教育センター副所長 それでは私から、引き続き議案第84号の、杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書、これは平成23年度使用の採択について、ご説明を申し上げます。

特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置にかかわる関係法令によって、毎年、採択が行われることになっております。

小学校教科用図書と同様、規則、要綱、手引きに基づき、特別支援教科用図書調査委員会を設置いたしまして、特別支援学校及び特別支援学級設置校における調査・研究を参考に、合計644冊の図書について調査・研究を行いました。

なお、調査・研究結果につきましては、8月2日に調査委員長から教育委員長に報告書を提出し、委員からのご質問等にお答えをしたものでございます。

提案理由は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び14条の規定に基づき、特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書を採択する必要があるため、ご審議をお願いするものでございます。議案の朗読は省略させていただきます。

よろしく願いいたします。

委員長 それでは、これは非常に重要な議題でございますので、對馬委員から順に、ただいまの説明についてのご質疑、ご意見を伺います。

對馬委員 特別支援用の図書のどうか、授業用の図書のリストを見せていただきました。一人一人、やはり症状があって、いろいろ違いますので、一人一人に合ったものを現場の先生方が、これが一番良いと思うものをお使いになるのが良いと思いますので、全体として東京都で選ばれたものを採択する形と伺っております。その中から現場の先生が一番合っているものをお使いになるというふうに伺っております、それで私は結構だと思います。

委員長 田中委員、いかがですか。

田中委員 對馬委員と同じく、リストは拝見させていただきました。私も、一人一人のお子様方が、きちんと先生方が把握した上で、その子なりの正しい学習が受けられるような形で、東京都が採択した教科書でよろしいと思います。

委員長 宮坂委員、いかがですか。

宮坂委員 私も同じですね。

委員長 教育長は、もう一番よくご存知のところですが、教育長のご意見も伺います。

教育長 2人の委員がお話しされましたように、障害の多様性というのは、本当に一人一人、似ているようでも違うところもあって、発達の段階も違いますし、本当に木目の細かい対応をしていく必要があるということは、これはもう当たり前のことで、そういうことから考えたら、選択の対象はできる限り広いほうがいい。挙げられたものを、あれはだめ、これはだめと言うよりは、可能性を広げておいたほうが現場で使いやすいだろうというふうに考えますので、これで結構だと思います。

委員長 私は、教育委員の中で特別支援に特に担当といたしますか、そこには必ず私が行くことになっておりますので、杉並区の養護学校は、常に私が行っております。これは子どもたちが顔を覚

えるためにも、教育委員が回り持ちで行くとなかなか親しみがないということなので、私は過去10年間ずっと済美養護学校へ行っております。それ以外のところでも特別支援学級をつくっておりますが、そこも私は、開所であれ、何であれ、関係がある時は、常に行っております。一応学年制を済美でもどこでもとっているわけですね、3年生とか4年生とか。しかし、実際には、その同じ学年の中でもとても違いまして、ある程度こちらが言ったことを反復できる子どももいれば、もっと碎いて言わないとついていけない子もいます。

そういうことからしますと、これは法令でも検定教科書以外でも採択をして良いことになっているぐらいですから、もう本当にその先生方が子ども一人一人を見ながら、この子にはこの教科書、この子にはこの教科書というようにしていただくために、これまでやってきたやり方が一番良いと思います。たくさんリストをいただきました。600何冊という、それ一つ一つを私は見て、先生方がその中から選んでくださるということは、大変ですけれども、ぜひそうしていただきたいと思っております。

そういうことでよろしゅうございましょうか。

(「結構です」の声)

委員長 それでは、総括をしまして、特別支援教育教科用図書採択候補については、候補のとおり
に、全部を採択いたしたいと思っております。異議などありませんでしょうか。

(「異議なし」の声)

委員長 それでは、それで異議なく、議案第84号は原案どおり可決いたします。どうもありがとうございました。

それでは、これで本日の議事は終わりましたが、それ以外に庶務課長から。

庶務課長 長時間にわたるご審議、どうもお疲れさまでございました。

次回の日程でございますけれども、ご案内のとおり、区議会の定例会が予定されてございますので、その開催日を勘案しまして、委員の皆様方と調整の上、改めてご通知を差し上げたいということ。

委員長 そうですね、はい。それで、もともとの日程からいきますと、8日の水曜日ですけれども、そこはまた、考え直すということですね。

庶務課長 はい。

委員長 はい、わかりました。ありがとうございました。

それでは、そのようにご了解ください。

今日の議事を終わります。どうもありがとうございました。